難民の面接における通訳
研修テキスト

UNHCR研修テキストシリーズ3

Self-study Module 3
Interpreting in a Refugee Context

2011年12月

UNHCR
The UN Refugee Agency

UNHCR 研修テキストシリーズ３
日本語版 (Japanese)

難民の面接における通訳
研修テキスト

Self-study Module 3
Interpreting in a Refugee Context

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所
2011年12月

Note

本文書は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の国際保護サービス局（DIPS）により作成されたものです。本書の内容は、UNHCRによる事前の承諾なく配布、複製、複写いただけます。本文書を使用・引用する場合は、出典としてUNHCRと明記していただきますようお願いいたします。

目　次

はじめに

概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

テキストの使用方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第Ⅰ部　プロの通訳

第Ⅰ章　背景の理解

A. 難民の保護およびUNHCRの役割 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1. なぜUNHCRが創設されたのか ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
2. UNHCRの責務は何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
3. UNHCRは国連の中でどう位置づけされているのか ・・・・・・・・ 13
4. UNHCRはどこで、いかに運営されているのか ・・・・・・・・・・ 13
5. 難民とは誰を指すのか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
6. 難民はどのように保護されるのか ・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
7. 難民認定手続きはどのように進められるのか ・・・・・・・・・・・ 14
8. その他のUNHCRの援助対象者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

B. UNHCRと通訳者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

1. UNHCRが通訳者の助けを必要とするのは、どのような時か ・・・・・ 16
2. UNHCRの活動範囲における通訳者の役割とは何か ・・・・・・・・ 16

第Ⅱ章　通訳における倫理

A. コミュニティ通訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

1. コミュニティ通訳者とは何を意味するのか ・・・・・・・・・・・・ 18
2. コミュニティ通訳者に圧力をかける者はいるか ・・・・・・・・・・ 18
3. コミュニティ通訳者にはどのような圧力がかけられるか ・・・・・・ 19
4. 職場においてコミュニティ通訳者にはどのような圧力がかけられるか ・・・・・・ 21

B. プロの通訳者としての行動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

1. 「プロである」とは、何を意味するのか ・・・・・・・・・・・・・ 22
2. プロになるために従うべき指針はあるか ・・・・・・・・・・・・・ 22
3. 「通訳者の行動規範」に示されている主な指針は、
どのような課題を取り上げているか ・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

4. 両言語に堪能である必要はあるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
5. 複数の言語の切替えを続けるのは大変な作業か ・・・・・・・・・・・・・・・・24
6. 通訳中に使用すべき代名詞とは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
7. 中立性および公平性とは何を意味するのか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
8. 個別事案の申立て内容に関して意見を述べるべきか ・・・・・・・・・・・・・・25
9. 通訳者は自分の家族のために通訳をするべきか ・・・・・・・・・・・・・・・・26
10. 面接時に聞いた内容を他言してもよいか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
11. 人から贈り物、金銭、好意を受け取ってもよいか ・・・・・・・・・・・・・・・27

自己学習用問題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

第Ⅱ部　言語上の問題

第Ⅰ章　通訳者の言語プロフィール

A. 通訳を行うための出発点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
1. 通訳者の業務とは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
2. よい通訳者がとる行動とは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
3. UNHCRの通訳者がするべきこととは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
4. 準備をしないで通訳をした場合何が起こるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・33

B. 通訳言語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
1. 通訳を引き受ける前にしておくべきこと ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
2. 上記の質問事項への回答を済ませたら ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
3. あなたの言語プロフィールの修正基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
4. あなたは特有の話し方をするか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
5. 話し方をテストすることはできるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
6. 話し方のテスト方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
7. 通訳者になるためにすべきことは他にあるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・40

第Ⅱ章　社会を背景とした言語

A. 意味の理解 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
1. ひとつの単語にどれほどの数の意味があるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・42
2. 最も「危険な」意味の段階はどれか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
3. すべての言語において、意味は同じ方法で表現されるのか ・・・・・・・・・・45
4. 主な違いは何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

B. 意味の訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
1. 意味を訳すための最も有効な技術は何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

目　次

2. 「一語一句直訳」するよう求められた場合どうするか・・・・・・・・・・・・・・48
3. 逐語逆翻訳は役に立つか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

C. 用語集作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
1. 用語集とは何か　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
2. 用語集はどのように機能するのか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
3. 用語集の構成はどのようにするか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
4. 用語集作成が重要な理由は何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

自己学習用問題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

第Ⅲ部　通訳者の手引

第Ⅰ章　通訳の手順

A. 逐次通訳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
1. 逐次通訳とは何か　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
2. 逐次通訳を上達させるには何をすべきか・・・・・・・・・・・・・・・・・57
3. アクティブリスニングとは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
4. 通訳者にとってアクティブリスニングが重要な理由は何か　・・・・・・・・・58
5. 聞くことと理解することについて、他に知っておくべきことは何か・・・・・58
6. 話の内容を最大限理解するにはどうすればよいか・・・・・・・・・・・・・59
7. 聞くこと、理解すること、訳すこと…は同時に行うのか・・・・・・・・・・・59

第Ⅱ章　記憶力の問題

A. 記憶力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
1. 記憶力は通訳者にとって重要か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
2. なぜ人は記憶するのか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
3. 気付くことと意識することは通訳の仕事にどのような影響を与えるか・・・・・62
4. 記憶力を訓練することはできるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

B. メモ取り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
1. なぜメモ取りをするのか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
2. なぜメモ取りが重要か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
3. メモ取りは記憶にどのように関連しているのか　・・・・・・・・・・・・・・65
4. 理想的なメモの取り方はあるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
5. メモ取りの別の例を見てみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
6. メモ取りには、どのような符号を使用できるか　・・・・・・・・・・・・・・66
7. 符号を使ってどのように出来事を時系列に述べることができるか　・・・・・67

8. 寸法、大きさなどについてはどうか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
9. 本筋と副次的な考えの関連性も示すことができるか ・・・・・・・・・・・・・・68
10. 他にコツはあるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68

自己学習用問題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

第Ⅳ部　さあ通訳をしよう！

第Ⅰ章　基本的な通訳手順

A. 正確かつ明確な通訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
1. 面接での通訳者の主要な仕事は何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
2. 通訳者は文化的な違いに対応することが期待されているか ・・・・・・・・・・72
3. 通訳手順の詳細はどんなものか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
4. 言語プロフィールの適性とは何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
5. よいマナーや敬意とはどういう意味か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
6. 自己紹介したほうがいいか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
7. 通訳中に障壁に直面する可能性はあるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
8.「代名詞の逆転」とは何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
9. ミスを犯したことに気付いた時は何をすべきか ・・・・・・・・・・・・・・・76
10. 話者を理解できない時は何をすべきか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
11. 話者の話す意味がわからない場合、どうすべきか ・・・・・・・・・・・・・・77
12. 面接官と面接対象者がお互いに向かって話をしない ・・・・・・・・・・・・・77
13. 面接対象者と面接官が侮辱し合う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
14. 文化の橋渡し役としての通訳者の役割がいまだに不明確である ・・・・・・・79
15.「乏しい語学力」を磨くことはできるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
16. 話者は「婉曲表現」や「比喩」を使用しているようである ・・・・・・・・・・80
17. 話者の話が意味をなしていないように聞こえる ・・・・・・・・・・・・・・・80
18. 話者が泣きながら話し続ける時、どうすればいいか ・・・・・・・・・・・・・81
19. 面接の終了時に何をすべきか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81

第Ⅱ章　実務面での注意点

A. 面接対象者と面接官と一緒に座る ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
1. 文化的要因はどうして重要であるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
2. 席の配置についてはどうか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
3. 通訳者はどこに座ってはいけないか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
4. 支障が出る座席の配置はあるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84

目　次

5. 何もかもを訳す必要があるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
6. 当事者の一方が通訳者とのみ会話しようとする場合はどうすべきか ・・・・・85
7. 話者にどのくらいの時間話させておくべきか ・・・・・・・・・・・・・・・・・85
8. どのような口調を用いるべきか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86

B. 特定の種類の面接 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
1. 面接がどうなるかを予測できるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
2. 通訳者が参加することによって、どのような違いが生まれるのか・・・・・・・87
3. 通訳者は面接中に信頼関係を築く役割を果たすことはできるか ・・・・・・・87
4. 難民認定面接には、特有の課題があるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
5. 医師の通訳を依頼された場合はどうするべきか ・・・・・・・・・・・・・・・89
6. 精神科医やカウンセラーの通訳はどうすべきか ・・・・・・・・・・・・・・・90
7. どのような専門用語を学ぶべきか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

C. 子どものための通訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
1. 適切な計画を立てずに子どもを面接していいのか ・・・・・・・・・・・・・・91
2. なぜ子どもへの対応には特別な配慮が重要か ・・・・・・・・・・・・・・・・92
3. 従うべき標準的な手順はあるか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
4. 子どもには特別な話し方をするべきか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92

D. 会議における通訳業務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
1. 会議通訳とは何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93

自己学習用問題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94

第Ⅴ部　自己管理の基礎

第Ⅰ章　セルフケアをしよう

A. フラッシュバック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
1. フラッシュバックとは何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
2. 二次的外傷性ストレス障害とは何か ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
3. 燃え尽き症候群とは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
4. 代理性心的外傷とは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
5. 心的外傷後ストレス障害（PTSD）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
6. こういった症状を患っていても通訳を行えるか ・・・・・・・・・・・・・・・100

自己学習用問題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101

付録Ⅰ　通訳者の行動規範 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102

付録Ⅱ　通訳者研修会のモデル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105

はじめに

概要

難民や難民申請者に関連して必要となる通訳における課題を主に扱う本文書は、UNHCRの国際保護サービス局（DIPS）が作成した自己学習用テキスト・シリーズの1冊である。UNHCRが難民関連の通訳に関する自己学習用テキストの1冊目を発行したのは、1993年6月である。1冊目のテキストは、難民保護に関連して発生する通訳の問題についての認識と理解を深めることにおいて役立つものであった。しかしながら、通訳の基準と原則は絶えず進化しており、過去15年間にこの分野は目覚しく発展したため、本テキストは、通訳分野における最近の進展を反映したものとして改訂された。

目的

通訳者が果たす役割、つまり**言語の壁を克服する**役割は、あらゆる国際的な状況において重要である。UNHCRの中心的な役割、つまり難民を保護し、恒久的解決策を探る役割を支援する取り組みに携わる場合には、通訳に新たな側面が加わるものと考えられる。

通訳を依頼された者、なかでも特にUNHCRの仕事に関わった経験の浅い通訳者は、効果的にその役割を果たすための手引書が必要である。本自己学習用テキストは、以下を目的として作成された。

- 通訳者が通訳の原則とテクニックに精通すること
- UNHCRの職員が現場で参考資料として利用すること
- 現場でUNHCRの職員および協力団体（通訳者の助けを借りて研修会を計画、実施する場合が多い）、協力者が参考にすること

つまり本自己学習用テキストは、通常の研修や自己学習に利用できる実用的な参考資料である。

内容

本テキストは、2つ以上の言語が話される場面で、それらの言語にいかなる違いがあるか、また、時に1つの言語から別の言語に正確に通訳することがなぜ難しいかを通訳者が理解するのに役に立つ。また、通訳者が黒子でありつつ、理解しあえない人々を助けるために用いる様々な技術に関して通訳者を訓練するものである。さらに、本テキストを使って学ぶことによって通訳者は、プロとしての適切な行動と不適切な行動、およびそれが自分の属する機関とその機関の支援対象者に及ぼす影響について理解することができる。難民関連の面接における通訳は難しい仕事であり、危険を伴う場合もあるため、通訳者の自分の身の守り方についての基本的な情報も含まれている。

テキストの使用方法

本文書は自己学習用テキストとして作成されているため、読者は目次から、プロとしての必要性に基づいて学びたい項目を選ぶことができる。内容は、一般の人がよく尋ねる通訳に関する質問に従って細分化されている。

本テキストを通じて中心課題となるのは、以下を実行するに際してのプロとしての行動である。

- プロとしての境界線を引く（「第Ⅰ部：**プロの通訳**」を参照）
- 言語上の中立性を保つ（「第Ⅱ部：**言語上の問題**」を参照）
- 通訳者として仕事を進めるのに役立つ資料を有効利用する（「第Ⅲ部：**通訳者の手引**」を参照）
- 正確かつ透明性のある行動を保つ（「第Ⅳ部：**さあ通訳をしよう！**」を参照）
- 通訳を行う過程に通訳者の主観が入り込まないようにする（「第Ⅴ部：**自己管理の基礎**」を参照）

学習者は、本テキストを最後まで読み進めることで多くのことを習得するはずである。各部の冒頭、各項の途中、また各部の最後などに質問が出てくるたびに、学習者は、持っている知識を使って答えを考えなければならない。テキストに解答集は添付されていない。個人的経験に基づき論理的に考え、さらに「行動規範」を十分に理解して批判的読解を行うことで、正解を導き出すことができるからである。

学習者は、通訳業務を進めるなかで自己分析を行うことが必要である。理想を言えば、この自己分析には、困難な問題、障害およびジレンマについて常にメモを取ることも含まれる。遭遇した問題に対する解決法に関して、同僚等と正しい情報に基づいて議論して得た結果は、指導責任者に報告されることが望ましく、また本自己学習用テキストの以後の改訂版に反映させるかどうかの検討もなされるべきである。

第Ⅰ部
プロの通訳

通訳者として効率的、プロフェッショナルに、また倫理的に活動するには、特に所属する機関、その機関の責務、活動範囲および目的に関連した仕事の目的と内容を認識しておく必要がある。また、難民関連の面接における通訳者の仕事は、いかなる状況においても高い能力が問われることを知っておく必要もある。仕事を取り巻く環境は、時に困難を伴う。周囲が通訳者に対し、通訳者ができないことや、行うべきではないことを期待することもある。通訳者自身の個人的な価値観と、通訳者としての行動規範とが対立する場合もある。通訳者を取り巻く環境によっては、行動規範に従って判断することが難しい場合もある。第Ⅰ部は、通訳の仕事をするうえでの障壁を認識することがそれを克服するための第一歩である、という考えに基づいて構成されている。

第Ⅰ章　背景の理解

本章では、以下の項目について学ぶ。

- UNHCRの創設、および国際連合（国連）内におけるその位置付け
- 「1951年難民の地位に関する条約」および「1969年OAU条約」に関連したUNHCRの任務
- 難民の定義および難民の地位の認定
- UNHCRの様々な援助対象者の分類
- 通訳者として立ち会う面接の種類

A. 難民の保護およびUNHCRの役割

1. なぜUNHCRが創設されたのか

UNHCRの創設は、人権問題が国際社会の課題として大きく取り上げられた第2次世界大戦後に着想された。その前身といえる国際難民機構（IRO）は、第2次世界大戦によって本国を追われた人たちの帰還や再定住に携わっていたが、1950年にその責務を終了した。しかし、100万以上の難民が取り残されており、その多くは難民キャンプで生活していた。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、1950年12月14日、国連総会によって設立された。国連総会で選出される高等弁務官は、経済社会理事会を通して同総会に報告する。政策指示は同総会によって決定される。UNHCR事務所規程に従い、UNHCRの責務は人道主義的および非政治的である。

2. UNHCRの責務は何か

UNHCRには中核となる2種類の責務がある。

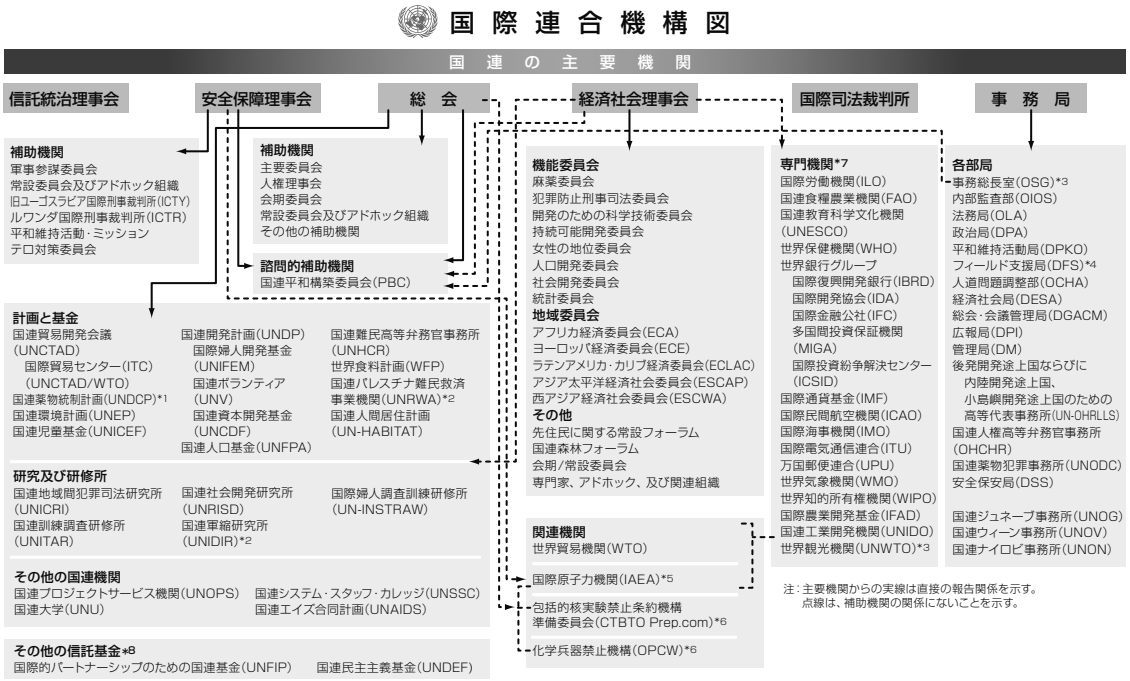
i. 難民への国際的保護の提供

ii. 難民問題の恒久的解決策の模索

上記は3つに区分される。

- 自発的な帰還：通常望ましいとされる解決策
- 庇護国における定住：受入れ側コミュニティに統合するための難民支援
- 第三国定住：難民を受入れ、定住させることのできる第三国を見つけること

3. UNHCRは国連の中でどう位置づけされているのか



1. 国連薬物統制計画(UNDCP)は国連薬物犯罪事務所(UNODC)の一部である。 2.UNRWA及びUNIDIRは総会に対してのみ報告する。 3.国連倫理事務所(The United Nations Ethics Office)、国連オンブズマン事務所(the United Nations Ombudsman's Office)、情報技術担当チーフオフィサー(the Chief Information Technology Officer)は、事務総長に直接報告する。
4.特別な場合、フィールド支援局事務次長は平和維持活動担当事務次長に直接報告する。 5.国際原子力機関(IAEA)は、安全保障理事会と総会に報告する。6.CTBTO準備委員会とOPCWは総会に報告する。
7.専門機関は、政府間レベルでは、ECOSOCを通して、また事務局間レベルでは、主要執行理事会(Chief Executives Board for coordination = CEB)を通して、国連や専門機関とともに活動する自治機関である。
8.国際的パートナーシップのための国連基金(UNFIP)は副事務総長の主導の下にある信託基金である。国連民主主義基金(UNDEF)諮問理事会は事務総長の承認のため、資金計画案の勧告をする。

4. UNHCRはどこで、いかに運営されているのか

UNHCRの本部はジュネーブにあり、その現地事務所は世界中に置かれている。

5. 難民とは誰を指すのか

「1951年難民の地位に関する条約」（1951年難民条約）によると、難民とは、人種、宗教、国籍、特定の社会的集団の構成員であること、または政治的意見を持つことを理由として迫害を受ける恐れがある、という十分な理由を伴う恐怖のために国籍国もしくは常居所の外にいる者であって、国籍国の保護を受けることができない者、またはそのような恐怖のために国籍国の保護を受けることを望まない者をいう。1951年難民条約以外の法的な枠組みでは、紛争や常態化した暴力から逃れた人々もまた、一般的に難民とみなされる場合もある。

1951年難民条約および1967年議定書は国際難民法の基本であり、そこに記された法的原則は、無数のその他の国際法、地域法、国内法、および難民の取扱い方に影響を及ぼす慣行の中に浸透していった。1951年難民条約で規定された最も重要な原則の1つは、「生命または自由が脅かされる恐れのある領域に」難民を追放したり帰したりすべきではないというものである。1951年難民条約はまた、国家が難民に対して認めるべき基本的権利の概要も示している。

「難民申請者（asylum-seeker）」と「難民（refugee）」という言葉は、時に混同されている。難民申請者とは、本人は難民であると主張しているが、その主張に、申請国、またはUNHCRが最終的な決定を行っていない個人をいう。すべての難民申請者が最終的に難民と認められるとは

限らないが、すべての難民は、もともと難民申請者である。ある者が難民に関する国際難民法文書の定義に定められる基準を満たしたとき、直ちに難民となるのである。つまり、難民としての地位が正式に認定されるには、その前に実際に難民になっている必要があるのである。従って、難民としての認定が難民申請者を難民にするのではなく、むしろその認定によってその者が難民であることが宣言されるのである。

難民と経済移民が混同される場合が増えているが、その違いは基本的には非常に明確である。難民は出身国を出る選択をするのではなく、迫害される恐れから、または武力紛争の結果としてそうせざるを得ないのである。それに対して経済移民は、出身国の保護を享受できるにもかかわらず、自分の経済状態の改善のためや、家族とのつながりのためなどの理由から、自発的に出身国を出ることを決める。

6. 難民はどのように保護されるのか

各国政府はその領土内にいる難民を保護する主要な責任を担っており、国内の非政府組織（NGO）と共同で保護する場合も多い。しかし多くの国では、それぞれの首都や辺境の難民キャンプ、国境地域など様々な場所で、UNHCR職員がNGOおよびその他の協力団体とともに活動している。その活動は、法的・身体的保護を提供、促進し、また性的暴行を含む性別に基づく暴力の脅威を最小限にする役割を果たしている。

難民の保護と支援のためのUNHCRの活動には、以下のものがある。

- 難民申請者の入国許可の確保。特に、国家が無差別に入国を拒否する場合。
- ルフールマンの阻止。生命や自由が脅威にさらされる恐れのある国に、難民を追放または送還する方針を阻止するための働きかけを意味する。
- 難民申請者の扱いを、基本的な人道基準に対応したものにするように取り計らう。UNHCRの任務は、国内法規を調整するよう各国政府を促すとともに、それが適切に適用されているか確認することである。
- 難民申請者が難民の地位認定（難民認定）手続きにアクセスできるように確保する。
- 強制収容からの難民申請者・難民の保護。
- 離散した難民家族の再統合の促進。

7. 難民認定手続きはどのように進められるのか

1951年難民条約およびUNHCR事務所規程に従い、申請者が難民の地位を得るには、以下の5つの基準を満たす必要がある。

- 十分に理由のある恐怖
- 迫害
- 条約上の理由（人種、宗教、国籍、特定の社会的集団の構成員であること、政治的意見を持つこと）
- 国籍国または以前の常居所以外の場所に居住していること
- 国籍国の保護を求めることができないか、迫害の恐れから保護を求めることを望んでいないこと

面接の目的は、申請者がこれらの基準を満たしているかどうかを検証することである。難民認定に対してUNHCRが直接関与するかどうかは、国によって異なる。

- UNHCRは事務所規程に従って、難民の地位を与えることができる。これは、1951年難民条約またはその他の条約等の締約国でない場合に行われる。また、1951年難民条約に署名または批准・加入しているが、その条約の履行を国内法令に組み込んでいない国でも行われる。
- UNHCRは、認定手続きを（その責任をUNHCRに委ねることを望む）国家当局に代わって進めることができる。
- UNHCRはオブザーバーまたはアドバイザーとして認定手続きに参加できる。通常、これは異議申立て段階で行われる。
- 認定手続きに関わる以外に、UNHCRは、不認定となり送還される予定の申請者を再審査することもある。

8. その他のUNHCRの援助対象者

UNHCRは長年にわたり、いろいろな意味で難民に類似した、しかしUNHCRの設立時の責務の中に明示されていなかったその他の集団に対しても責任を担ってきた。

帰還民とは、本国に自発的に帰還した元難民である。UNHCR事務所規程では、自発的な帰還を円滑に促進する責任をUNHCRが負っているが、従来は、難民との関わりは、難民が国境を越えて出身国に戻った時点で終了すると考えられていた。しかし、UNHCRが難民に関する恒久的解決策を探るなかで、UNHCRが帰還後も当然に影響力を持つことや、帰還民のモニタリング、出身国における追加支援などのUNHCRの活動が妥当であることを、UNHCRは執行委員会（UNHCRのモニタリング機関）による様々な結論を通して過去数十年にわたって確認している。

無国籍者とは、いかなる国家の国民でもないとみなされている男性、女性、子どものことである。無国籍者は国から有効な保護を受けられず、国民が通常享受できる権利を行使しようとする際に差別を受ける恐れがある。無国籍者はまた、取り巻く状況に応じては難民とされることに留意すべきである。

無国籍者に関連した重要な国際法文書には次のものがある。

- 無国籍者の地位に関する条約（Convention relating to the Status of Stateless Persons）（1954）
- 無国籍の減少に関する条約（Convention on the Reduction of Statelessness）（1961）

UNHCRは、第一に国連総会決議に基づいて無国籍者の支援を信任された唯一の国際機関である。上記の条約に基づいて、UNHCRは以下の責務に当たる。

- 無国籍者の権利が尊重されるように努める。
- 無国籍状態にあり、その国と多大な関係性がある者に、その国が国籍を付与するように働きかけるなどの方法で、無国籍者の増加防止、減少を図る。

国内避難民とは、武力紛争、常態化した暴力状態、人権侵害、または自然災害・人災の結果、国内の別の地域に避難した人をいう。国連の国内強制移動に関する指導原則（Guiding Principles on Internal Displacement）（1998）には、国内避難民のための国際的活動に関する基準が設定されている。UNHCRの責務は特に難民を対象としているが、過去30年間で、国内避難民に関する世界中の30以上の活動に対しても支援を行ってきた。2005年、国連は、国連内におい

て国内避難民を支援する専門性を持つ機関の役割を明確にし、それを強化するための包括的な合意に達した。この合意に基づき、UNHCRは2006年1月1日をもって、国内避難民の保護、緊急時シェルター、およびキャンプ運営管理に対して主導的な責任を担うこととなった。

B. UNHCRと通訳者

1. UNHCRが通訳者の助けを必要とするのは、どのような時か

以下のような場面で、UNHCRの職員がその援助対象者の面接をする際に通訳者の助けを必要とすることがある。

- 登録手続き：難民、国内避難民または帰還民の個人情報の記録時
- 難民認定：難民の定義の基準を満たしているかどうかを認定するため、難民申請者を面接する際
- 第三国定住に関する面接：第三国に再定住する必要があるかどうかを認定するために、難民を面接する際
- モニタリング：UNHCRが面接を通じて、難民、帰還民および国内避難民の保護、権利および生活に関連する情報を収集する際
- 参加型評価：UNHCRの援助対象者である女性、少女、少年および男性が特定の保護を受けられない問題に直面する危険性、およびその根底にある原因に関する正確な情報を収集し、彼らの立場を理解し、その解決案を聴取するために、体系的な対話を彼らとの間で実施する際
- カウンセリングや医療相談：個人的な問題や病気関連の問題に関する、確実な情報に基づく専門的な助言を、難民およびその他のUNHCRの援助対象者に対して行う際
- 暴力または拷問の経験者の審査：拷問による精神的、肉体的影響に関する詳細な情報が求められる際

2. UNHCRの活動範囲における通訳者の役割とは何か

UNHCRの中核的な責務（登録、難民の地位の認定、第三国定住、カウンセリングなど）を遂行する際には（その多くは、性別に基づく性的暴行に関連する慎重に扱うべき問題が伴う）、通訳者が不可欠である。そのため通訳者は、多くのUNHCR事務所で重要な役割を果たす。UNHCRが難民の抱える問題を理解し、適切に対応するためには、難民の陳述を正確に通訳することが必要不可欠である。同時に、通訳者は援助対象者に対して重大な影響力と権限を持つ立場にある。多くの通訳者は権限に従って、高いプロ意識でその役割を果たすが、この権限は時に、難民に不利益をもたらし、同様にUNHCRのプログラム全体の整合性を害するような利用のされ方もしてきた。

留意点

先に述べたような状況のいずれにおいても、通訳者の助けが必要となる場合がある。どのような手続きを適用するのかを、また、一連の流れについて説明するのは、面接官の責任である。また、面接対象者の主張を注意深く聞き質問をし、その主張を評価するのも、面接官の責任である。通訳者の役割は、面接官と面接対象者間のコミュニケーションの橋渡しを行うことによりこ

の手続きの手助けをすることである。各当事者は通訳者の声を介して話をするため、通訳者の役割は重要であり、高度な専門的技術を用いて取り組む必要がある。

第Ⅱ章　通訳における倫理

本章では、以下の項目について学ぶ。

- 言語コミュニティと職業コミュニティの両方の構成員としてのあり方
- 社会的圧力が通訳者としての業務に及ぼす影響と、その対処法
- 通訳の過程で起こり得る様々な状況への対処方法
- 職業的境界線の引き方
- 行動規範が専門家としての行動について示すものとは何か

A. コミュニティ通訳

1. コミュニティ通訳者とは何を意味するのか

以下の場合、コミュニティ通訳者にあたる。

- ある**言語コミュニティ**の一構成員である場合
- その言語コミュニティ内で、人々に通訳者としての業務を提供する場合
- 言語コミュニティの人々がある言語を話さず、または自在に使いこなすことができない場合
- その言語が、コミュニティの人々が利用したいサービスを提供する機関で用いられている場合

コミュニティ通訳者は、第1世代の移民・難民やその子孫である場合がある。彼らのなかには、移民や難民集団と強い結び付きがあるという認識を持つ通訳者もいれば、そのような認識を持たない通訳者もいる。少数派集団の一部の人が権利を十分に享受するための妨げとなっている言語障壁を克服できるようにそういった人々の手助けをするという点で、コミュニティ通訳者は**ソーシャルワーカー**のようにみなされることが多い。コミュニティ通訳者はまた、**多数の文化をよく理解した人**であると考えられることがある。というのは、2者（この場合、互いの言葉を逐語訳しても、相手のことが理解できない関係）の間に横たわる文化的違いによって生まれる溝を埋める**仲介者**として行動することが期待されている面があるからである。

Q. 自身は通訳者としてどの分類に入るか。

2. コミュニティ通訳者に圧力をかける者はいるか

社会的または仕事上のストレスが以下の点に直接関係している場合、通訳業務の質に影響を与える。

- 通訳者としての役割
- 通訳者に対する雇用者の期待
- 通訳者に対する同じ言語コミュニティ内の仲間（時に重要な個人的関係を持つ相手）からの期待

私たちは同じ言語を話し、
お互いを理解している。

上記のような関係性は通訳者の機能を妨害し、時代錯誤的に理想化された通訳者の役割と呼べるような**翻訳機械**または**導管**を演じることは不可能になる。

それに対し、通訳者の年齢、性別、社会的地位、政治的傾向および宗教的傾向は、面接の力関係に影響を及ぼす。そして、通訳を介するコミュニケーションの質に悪影響または好影響を及ぼすことがある。

そうした影響を無視すべきではない。というのも、そのような影響を引き起こす諸要因のいくつかを通訳者が認識してさえいれば、影響を最低限に抑え、さらには中和することもできるからである。

3. コミュニティ通訳者にはどのような圧力がかけられるか

この質問に答える前に、自分に何が期待されているのかを考える必要がある。まずは自身の言語コミュニティを取り上げてみよう。**家にいるときに、**数人の友人に情報を伝えたと仮定する…

…すると、たいていの場合48時間以内には、コミュニティ全体が何が起こったのかを知る。あなたのしていること、していないこと、権力があるのかどうか、博学であるのかどうか、尊敬されているのかどうか、信頼に足るのかどうか、有力者を知っているかどうか、または政治的経済的に影響力があるのかどうかにもよるが、以下のような架空のシナリオに基づき、コミュニティの構成員は、期待の眼差しであなたを見たり、通訳者には果たすべき一定の義務があると思いこんだりする場合がある。

シナリオ１：あなたは出身国の最重要野党の党員であり、また当政党はあなたが所属するコミュニティの政治活動を独占している。ここでは難民がUNHCRに何を話すべきで何を話すべきでないかについて一定の共通理解がある。

シナリオ２：かなり小さなコミュニティであり、ほとんどの構成員は知り合いである。文化的に、家族を喜ばせることが極めて重要である。

シナリオ３：あなたの弟が大きな恩を負っているコミュニティのある構成員が、話をまとめようと、あなたのところにやってくる。構成員は、あなたの未婚の妹を米国に第三国定住させることを望んでおり、あなたが彼女のために何をすべきかわかっていると確信している。あなたが実行すれば、構成員は弟が負った恩を水に流すと言う。

シナリオ４：あなたのコミュニティにおいてはイスラム教徒が大多数を占めるが、自らをキリスト教徒であると主張する者もいる。彼らは元はイスラム教徒で、難民の申立てに信憑性を持たせるために改宗したのではないかという噂もある。あなたがそのうちの1人であると疑う者もいる。

シナリオ５：難民としての生活は過酷であり、常にお金に困っている。難民はまた、確かな証言、証明書、文書等が必要である。それらの問題の1つを解決することで、その他のいくつかの問題を一挙に解決できる場合もある。

シナリオ６：あなたの出身国で迫害されたと主張するコミュニティの人の数が増加している。あなたの国の大使館も秘密裏に迫害に関与している。人々は脅迫されており、一部の者の申立て内容は間接的に密告されている。あなたには妻と若い娘がいる。

シナリオ７：あなたのコミュニティでは、性的暴行の生存者またはHIV感染者は社会的に取り残されている。構成員は、常にあれこれ詮索されている。あなたの近親者が出身国から到着したばかりである。彼女は妊娠3カ月であるが、夫に6カ月間会っていない。夫妻は別々に面接される予定である。

留意点

難民が通訳者として信頼されるには、コミュニティの一員として完全に認められている必要があると考える人も多いだろう。もしあなたが上記のいずれかのシナリオに関与する通訳者であっ

たらどうするか？それぞれのシナリオを一つの物語として捉え、自身の通訳者としての役割と判断、そしてその様な判断をする理由を中心に考察する。

4. 職場においてコミュニティ通訳者にはどのような圧力がかけられるか

コミュニティ通訳者になってしばらくして、あなたは社会的圧力というものを認識するようになるであろう。仕事として通訳業務に携わるとなると、職業的境界線を引けるようになるまでに、ある程度の経験を積む必要がある。

Q.

- あなたなら「ジョンの疑念」に共感するか。ジョンは非常に簡単な依頼を受けており、一見したところ特に問題はないようにみえる。それならば、どのような理由でジョンはためらっているのだろうか。

以下のシナリオに通訳者として自分自身が遭遇したとしよう：

シナリオ1： 面接対象者の何人かが、賄賂や脅迫を使い彼らの代わりに面接中に嘘を付くよう圧力をかけてきた。

シナリオ2： 第三国定住の対象とされなかった難民に脅迫され、最終的に襲われた。

シナリオ3： 面接官があなたに、申請者とその生活について知っていることや、コミュニティ内の申請者に対する評価について報告するよう求め、終いには、申立て内容そのものに対するあなたの意見を求めてきた。

シナリオ4： 同僚の通訳者2人が、彼らの親族数人が受けた、難民認定および第三国定住のための面接の結果に、あなたが悪影響を及ぼしたと非難してきた。

シナリオ5： 6人の面接の通訳業務を終え、疲れ切っているところ、面接官がもう1人、申請者の通訳をするよう求めてきた。

職業と個人の活動の間に境界線を引くことは容易ではない。境界線を引く際には、常に自分自身に対しても、できる限りその他の人々（同僚、友人、知人など）に対しても、その境界線を正当化できなければならない。**職業的境界線**とは、仕事上できることとできないこと、また期待できることと期待できないことの境目を示すものである。この境界線は、例外的な状況、またはこの境界線を越えたことによってもたらされる相互的かつ十分な認識がある場合を除き、越えては

ならない。

Q. 上記のようなシナリオでは、どこに職業的境界線を設定するか。

留意点

職場内外で圧力を受ける状況にある時は、個人の身の安全と精神的健康についても意識する必要がある。職業的境界線を引くだけでは、ストレスを減らすことはできても、完全に取り除くことはできない。

B. プロの通訳者としての行動

1.「プロである」とは、何を意味するのか

プロフェッショナル（プロ）とはある特定の専門分野に精通している人、つまり、依頼者に満足してもらうためにどのように仕事をすべきかを知っている人をさす。上記以外にも、**プロ**とはたとえ**仕事に就いて一日目であり、以前にその仕事をしたことがない場合でも、**一歩一歩仕事を進める姿勢ができており、確実に正しい方法で物事を処理できる人のことである。

> できることとできないことを認識し、自らの限界を無視したり隠したりしない人。ごく基本的なことから始め、高い技能を獲得しようと意欲的に学ぶ姿勢がある人はプロである。通訳者としての姿勢と振る舞いをしっかりと心得ていること、つまり物事に**境界線を引くこと**ができることもまた、プロである証しである。

2. プロになるために従うべき指針はあるか

プロになるための手引きのようなものはいくつか存在する。これらは自分自身を取り巻く状況に闇雲に適用させる一連の規則や規定としてではなく、あくまでも**指針**として用いることを強く薦める。この指針については、本書の付録Ⅰ「通訳者の行動規範」に収録されている。

指針の有効性および適用性を調べる最良の方法は、それらの指針の背後にあるものを理解し、「**その指針に従わない場合どうなるのか？**」あるいは、「**これをして、あれをしない場合はどうなるのか？**」を問うことで、それぞれの指針を**結果**に基づいて検証することである。同時に、思い浮かぶすべての疑念や質問を書き留めることや、これまでに示したシナリオに指針が適応可能かを検証してみることを薦める。

3.「通訳者の行動規範」に示されている主な指針は、どのような課題を取り上げているか

- 公平性および中立性
- 守秘義務
- 能力
- 透明性
- 通訳の正確性
- 境界の線引き

Q.

- 上記の各項目は「行動規範」のどの部分に記載されているだろうか？
- 職業に必要とされる要素（誠実性、説明責任、配慮、信頼性、敬意）について、あなたはどのように理解しているだろうか。また、それら職業価値は、行動規範およびあなたの通訳者としての役割に関連しているだろうか。そうであれば、どのように関連しているだろうか。

4. 両言語に堪能である必要はあるか

留意点：通訳者の言語能力のレベルが仕事をこなすうえでの障害にならない場合にのみ、プロとしての役割を達成できる。

Q.

- あなたが両方の言語に堪能ではなく、他に通訳者もいない状況で通訳をする際にとれる有効な対策はあるだろうか。

5. 複数の言語の切替えを続けるのは大変な作業か

注意/結論/指針：通訳者は、話者の言葉を正確に通訳できるよう、双方向に逐次通訳を行えるように備える。

Q.

●面接官が時間に追われて長時間面接を実施しているなか、あなたはミスを連発する。その場合あなたならどうするか。「**私はいくつかミスをしました**」と伝える覚悟はあるだろうか。

6. 通訳中に使用すべき代名詞とは

注意/結論/指針：通訳者は話者と同じ文法的人称を使用すべきである。

Q.

●「私」ではなく「彼女」と言い続けた場合、ほかにどんな影響が起こりうるだろうか。

●無意識に「彼女」や「彼」に切り替えてしまうような例を他に思いつくか。

7. 中立性および公平性とは何を意味するのか

注意：通訳者は、何も追加したり削除したりせずに正確に通訳する責任を負う。

Q.

- この場合、面接官はどのようにして、申請者は実際に拷問を受けていないことを知ることができるか。

8. 個別事案の申立て内容に関して意見を述べるべきか

留意点：通訳者は、携わっている案件に関して意見を表明したり、面接官が所見を展開するための手助けとなるいかなる種類の情報（社会学的、人類学的、歴史的情報）も提供すべきではない。

Q.

- 一方で、出身国情報の情報源として通訳者の存在が非常に役立つ場合がある。どのような状況でそれは有益であると思うか。また有益である場合は、「行動規範」の内容と折り合いをつけることはできるか。できるとしたら、通訳者はどのように通訳業務を行うべきか。

9. 通訳者は自分の家族のために通訳をするべきか

留意点：通訳者は緊急の事態を除き、近親者や個人的な友人のために通訳してはならない。

Q.

- これは大変厳しい指針であるといえるが、忠実に適用するべきだと思うか。たとえば、通訳者が自分の兄弟のために通訳を買ってでることは、実際は良いアイデアであると考えられないだろうか。

10. 面接時に聞いた内容を他言してもよいか

留意点：通訳者は、いかなる状況でも、いかなる理由においても、UNHCRで働くなかで入手した口頭や書面での情報を開示または他言してはならない。

Q.

- 通訳者本人以外で、通訳者のこのような行為によって苦しむ者はいるか。
- 通訳者はどのような状況において、またどの程度の範囲で話すべきだと考えるか。

11. 人から贈り物、金銭、好意を受け取ってもよいか

留意点：通訳者はいかなる規定外の報酬、金銭またはその他の好意（贈り物）も受け取ってはならない。

Q.

● 通訳者は本当に規定外の報酬を何一つ受け取ってはならないだろうか。一杯のお茶は、手編みのセーターは、食事はどうだろうか。あるものを受け取り、あるものを拒否する理由について説明しなさい。

自己学習用問題

1. UNHCRの責務は、難民を保護し、難民問題に関する恒久的解決策を探ることにある。

正　□　　誤　□

2. UNHCRはまた、無国籍者、帰還民および国内避難民に対する責務を負っている。

正　□　　誤　□

3. 1951年難民条約によると、経済移民に難民の地位を付与することができる。

正　□　　誤　□

4. 20 ～ 21ページに記載されたシナリオを読んでみよう。

シナリオで示された問題に関して、どこで答えを見つけることができるか。
自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

5. 20ページの漫画（「コミュニティ通訳者にはどのような圧力がかけられるか」）を参照してみよう。自分ができないことを他人が期待しないようにするため、あなたはどうするか。その取り組みにおいて障害となり得る恐怖、権力、金銭および羞恥心について考える。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

6. 21ページの漫画（「職場においてコミュニティ通訳者にはどのような圧力がかけられるか」）を見る。もしジョンの立場であったら何をするか。またなぜそうするのか。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

7. コミュニティ通訳者であるには、難民でなければならない。

正　□　　誤　□

8. プロであるには、行動規範のみに従わなければならない。

正　□　　誤　□

9. コミュニティ通訳者は、面接対象者の出身国、文化、歴史および社会について多くを知っているため有益である。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

10. 通訳者に、近親や友人のために通訳するべきでないと助言するのはおかしい。通訳者が自分の姉妹のために通訳をする場合、彼女が味わった経験を完全に理解しているため素晴らしい仕事をするはずである。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

11. コミュニティ通訳者はソーシャルワーカーである。主な仕事は、少数派集団に属するために社会的に弱いまたは脆弱な立場にある人々を助けることである。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

12. 自分自身の価値観、「通訳者の行動規範」に示された指針、状況、環境、社会的・仕事上の圧力、および以下のケースにおいて通訳者の判断が通訳者自身とその他のすべての関係者にもたらす正と負の影響を踏まえた自身の倫理的判断能力を検証すること。

以下の各ケースに関して考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

ケース1： あなたは、自分のコミュニティの一員でもある難民女性のために通訳を行う。面接中、彼女がHIV感染者であることを知る。あなたの兄は彼女を愛しており、結婚したいと考えている。

ケース2： あなたとあなたの姉（妹）は、健康に関する十分な支援が難民に提供されていない国に住んでいる。あなたの姉（妹）は重い病気にかかっており、オーストラリアに第三国定住することができれば適切な治療を受けることができるが、現在の場所に留まった場合、危篤状態に陥る恐れがある。彼女は難民認定面接を受ける予定である。あなた自身と異なり、彼女にはよりよい生活を求める以外に出身国を出国する理由がない

ことをあなたは知っている。

ケース3： 最近、あなたは同じ面接官が担当する面接の通訳をすることが多くなっている。面接官はあなたをとても信用するようになっていたので、徐々に彼が審査したそれぞれの申立てに関して、あなたに意見を求めるようになってきた。面接調査の中である難民申請者が、コミュニティの多数の難民がその一員であると申告している野党組織によって投獄、拷問されたという主張をした。あなたも自身の難民認定面接でその野党組織の活動家であると言明していた。コミュニティの複数の者は、あなたは彼らに何らかの借りがあると考えているようだ。

ケース4： 何者かがあなたのもとに現金5,000ドルを持参し、あなたが仕事中に難民調査ファイルを閲覧できることをよく知っていると述べる。あなたは緊急にお金が必要である。彼は、数枚の写真と数人の名前を差し替えさえすれば、このお金はあなたのものだと述べる。

ケース5： あなた自身は申請者をサポートする立場にないとわかっているものの、あなたが介入しなかった場合、ある難民女性の主張を理解する者がいないために彼女は難民不認定になるだろうと強く予感している。彼女は心的外傷後ストレス障害（PTSD）を患っており、その症状として拷問について話す時に彼女は感情を表に出すことができないことを、あなたは知っている。また、**あなたと彼女の言語では**衝撃的な主題について話す時、儀礼上、婉曲表現を用いるという異文化的背景も認識している。

第Ⅱ部
言語上の問題

言語は多くの場合、口を開いた時に生み出されるものである。この強力なコミュニケーションツールに、あなたはどれほど精通しているだろうか。第Ⅱ部では、まず通訳業務の基本について説明し、次に演習で、自身の母語プロフィールを描き、話し方を意識することを通訳者に求める。さらに、通訳者として勤務中に直面する複雑な状況をいくつか検討し、社会的な背景に照らした言語について簡単に考察を行う。また、質の高い通訳をするのに必要なツールも提供する。

第Ⅰ章　通訳者の言語プロフィール

本章では、以下について学ぶ。

- 通訳者の業務
- 通訳言語の決定
- 自身の話し方の分析
- 自身の言語能力を試し、通訳言語を決定するための演習
- 発声および発音の向上に必要な練習

A. 通訳を行うための出発点

1. 通訳者の業務とは

2つの言語を話し、2つの集団の人々が互いに述べている内容を忍耐強く通訳することができる者を探す必要があるが、それは誰か？

この質問に答えるには、2つの集団が完全にお互いを理解することの重要性について考える必要がある。双方の人々が「ただ単に」交流しているわけではない場合、未熟な通訳者が招いてしまう事態には何があるだろうか？

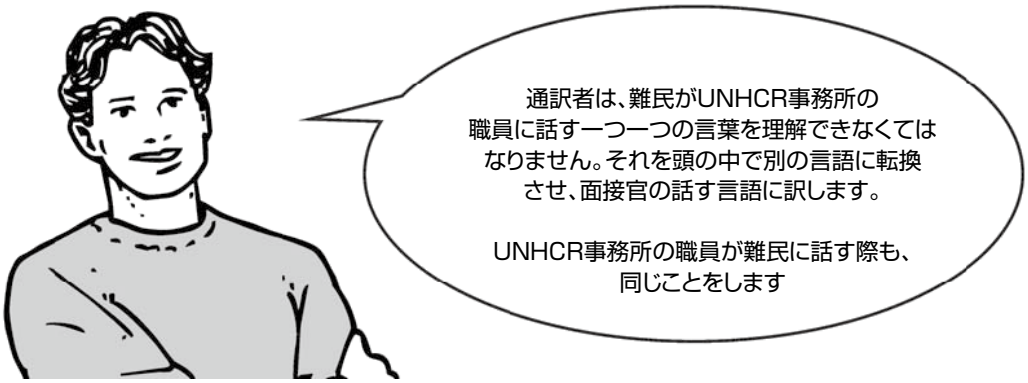
2. よい通訳者がとる行動とは

Q.

通訳者にとって**理解すること**は非常に重要である。何が起こっているのかを理解するために、あなたは何をするべきだろうか。

3. UNHCRの通訳者がするべきこととは

通訳者はまた、通訳の正確さの度合いが会話の結果に影響を及ぼすことを十分に認識しなくてはならない。



4. 準備をしないで通訳をした場合何が起こるか

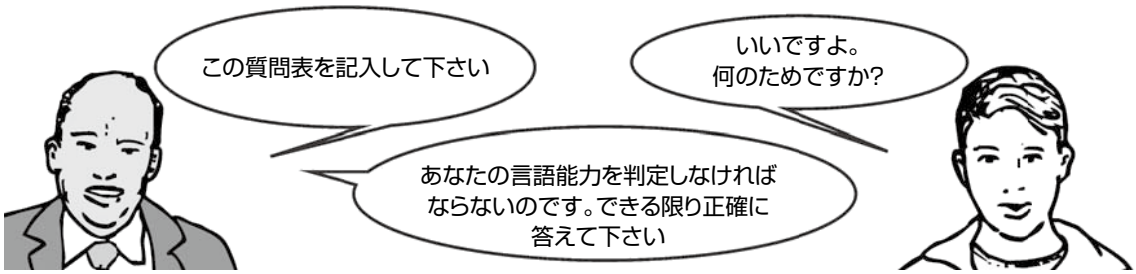
準備せずに通訳した場合、通訳の仕方を知らない単語や表現に直面することになる。その単語や表現の意味が**わからず**、結局、無視したり推測したりする恐れが生じる。

留意点

準備なしに通訳した場合、難民やUNHCRの職員が話している内容を**通訳**しているのではなく、自分の内面に浮かんだことを述べることになる。**話された内容を別の言語に換え**、完全に虚構の現実を生み出したということになる。この虚構の現実は、通訳されている2人が実際に話している内容に基づいているのではなく、**通訳者が**彼らが話していると**思う**、または思いたい内容に基づいている。面接中にこうしたことが繰り返された場合、難民とUNHCRの職員は、互いに話しているのではなく、通訳者と話していることに気づかないまま、面接が終わってしまう危険性がある。

B. 通訳言語

1. 通訳を引き受ける前にしておくべきこと



質問事項

- 最初に学んだ第一言語（言語A）は何か。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語Aをどこで学んだか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 今も言語Aを話しているか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 日常的に言語Aを話しているか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語Aに堪能であるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 長い間、言語Aを話していないか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- その場合、どれくらいの期間か。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語Aの方言（標準語以外への言語変種）を話すか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- その方言はどこで話されているか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語Aには標準語はあるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語Aには文語はあるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- それを読むことはできるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- その他に知っている言語（B、C、D）はあるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- それはいつ、どこで、どのように学んだか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語B（C、D）には標準語はあるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語B（C、D）には文語はあるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- それを読むことはできるか。 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 言語AとB（C、D）であらゆることについて話すことができると思うか。

＿＿＿＿＿＿＿＿

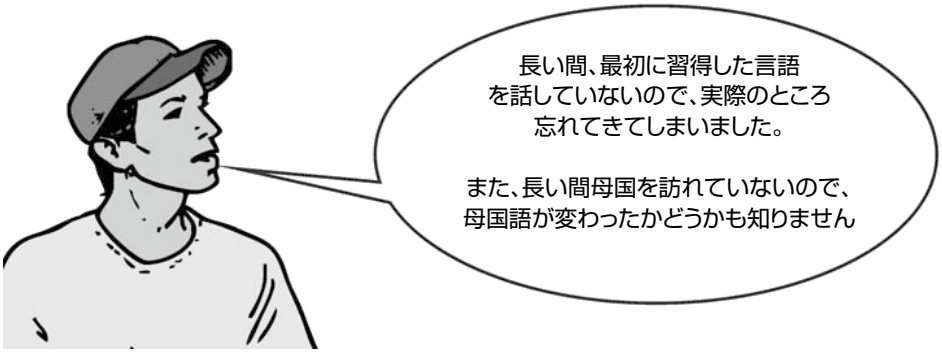
2. 上記の質問事項への回答を済ませたら

回答について指導責任者と話し合い、必要に応じて修正を加えたうえで、それを基に自身の言語能力について簡潔に記述した言語プロフィールカードを作成し、通訳依頼者と共有する。

3. あなたの言語プロフィールの修正基準

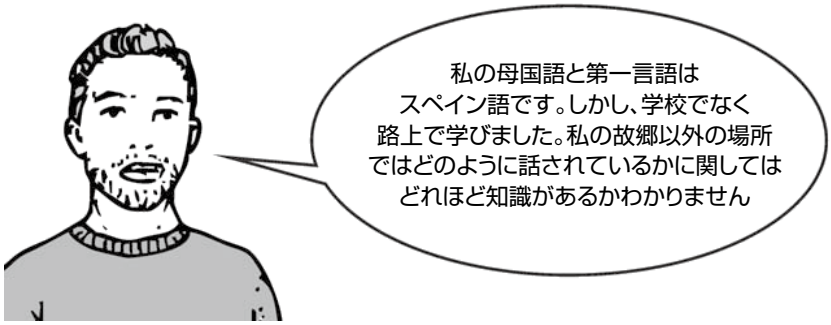
まず、以下の事例のなかで自分にあてはまるものがあるかどうか検討する。その後、それらを自分の事例と比較することで自身の話し方を認識する。最後に、用意されたテストを受ける。

ケースⅠ

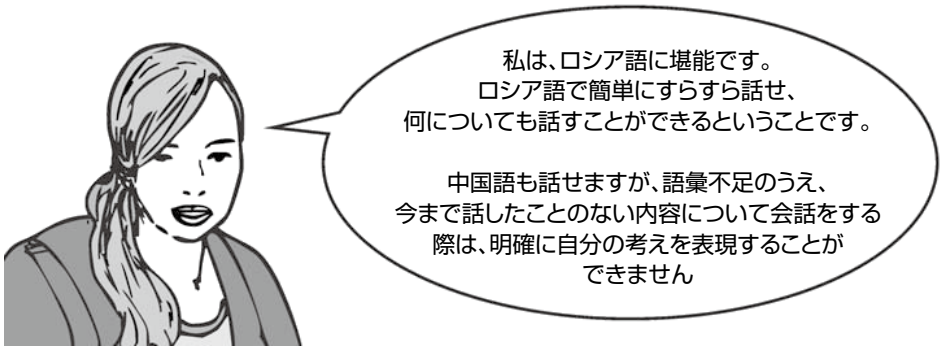


ケースⅡ

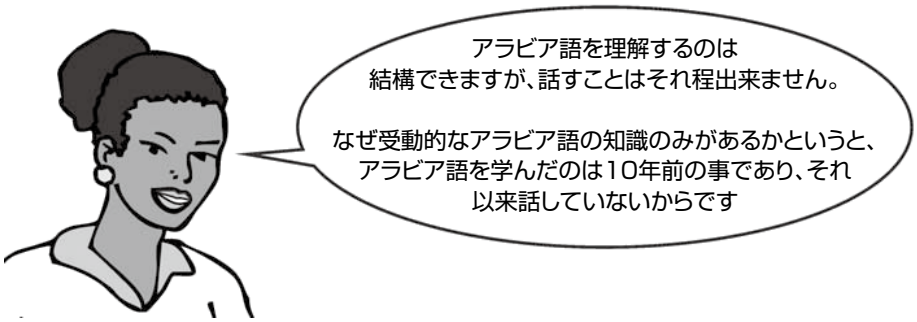
ケースⅢ



ケースⅣ



ケースⅤ



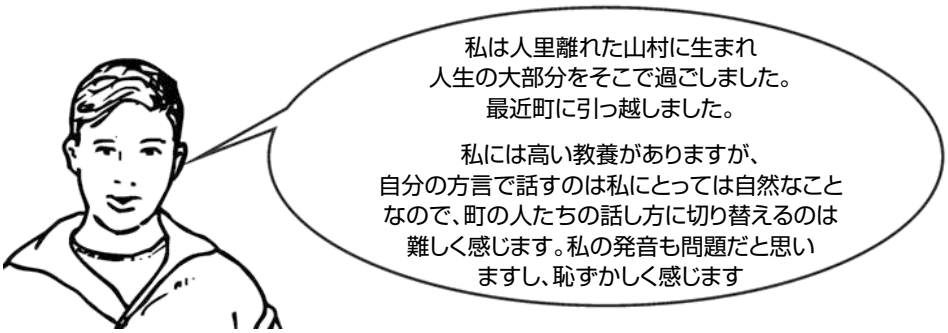
留意点

通訳者であるあなたが少数民族などの集団に属していることや、一定の地域に生まれたが、関連の言語は話せないということを述べるのは、間違っていない。これは完全に認められることであり、その事実を隠す必要はない。また、自身や両親の出身国以外で両親の言語を学ぶこともある。

4. あなたは特有の話し方をするか

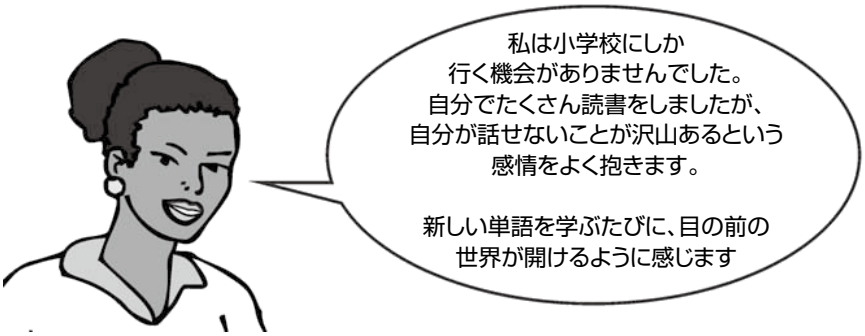
本項を進める前に言語プロフィールを再度確認することが重要である。さらに付け加える情報があるだろうか。加える情報は、どのようなものが有用か。ここに登場する友人たちの話の内容について、その人生経験と話し方を結びつけながら注目してみる。

ケースⅠ

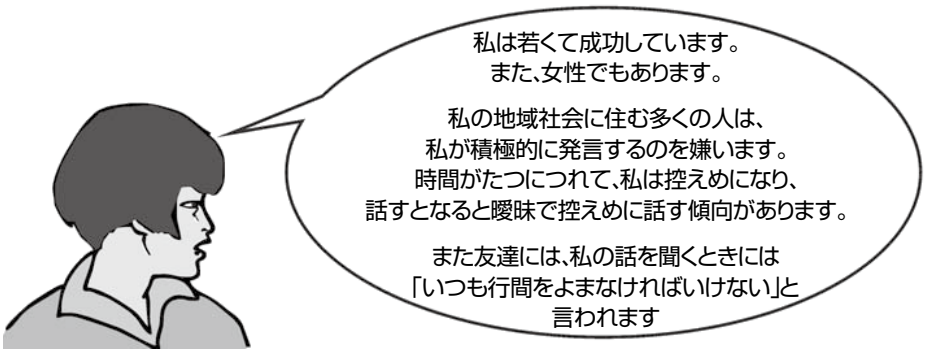


ケースⅡ

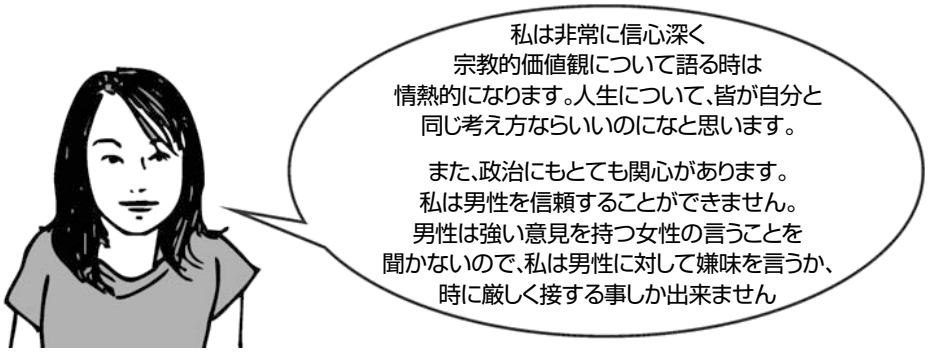
ケースⅢ



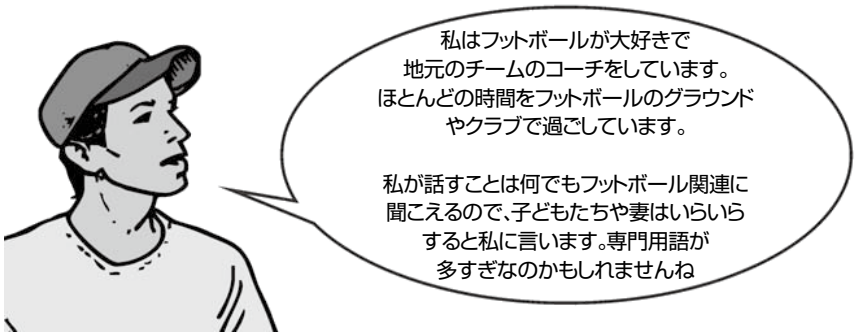
ケースⅣ



ケースⅤ



ケースⅥ



この一覧は完全なものではなく、さらに付け加えることもできるであろう。ただ、ここで**重要なことは、上記のケースを参考にすることで、自分自身の話し方について意識的になることである。**自分で自分の話し方は特別だと思うか。偶然に他の人の話を聞いて、その人の話し方に特徴があると感じたことはあったか。次の章で論じる内容に基づいて、各々がさらに体系的な検討を行うよう提案したい。

留意点

言語は容易に定義づけることができない。**通訳者として**、1つの言語に少なくとも3つのタイプの言語変種があることを考慮すべきである。

i. 標準語。標準語のない言語も存在する。言語によっては複数の標準語がある。通常、言語の標準語が何であるのかを決定するのは、何らかの権力機関（政治または言語に関わる機関）である。
ii. 口語。地方、都市、農村、集団または地域をベースとした方言も含まれる。
iii. それぞれの話者が所属するコミュニティや集団の中での言語の使い方。この場合、時に住んでいる場所や生活経験に関連している。

留意点

言語はコミュニティ、国民、国で使用される言語体系である。方言は単に言語変種（異なる言葉、文法、発音）である。

Q.

35 ～ 38ページに示した各ケースに照らし、自分の話し方をどのように結論付けるか。

●記入した質問事項を注意深く見てみよう。**最初に学んだ第一言語は何か**、といった質問が出されている。正しく回答したと思うか。回答する前に**言語**と**方言**（質問事項では**言語変種**）の定義を注意深く読み、質問事項に書き込んだ内容を再確認すること。

5. 話し方をテストすることはできるか

これから受けるテストは、通訳者が先ほど作成した言語プロフィールに関するものである。通訳者とその指導責任者が協力して、通訳者の言語能力を評価することができる。通訳者は自分の話す各言語に対する能力を確認する機会が得られる。

いわゆる**言語能力の弱点の部分**を認識する良い機会にもなるであろう。たとえば、自分では言語Cに堪能であると思っていたが、テストを受け、実際にできることは基本的な会話にすぎないことがわかる。会話が少しでも複雑になるとわからなくなってしまう。すると、今のところ言語Cを**通訳言語**一覧に含めることはできない。ただし、将来学習を重ねて堪能になった場合は可能である。

6. 話し方のテスト方法

⌧ テープレコーダーを使って10 ～ 15分間、**第一言語**で以下の話題についてマイクで話す。
- 自分を取り巻く環境（現在いる場所についてなど）
- 知人、およびその容貌、性格など
- 出身国の政治体制、統治者、統治方法など
- 宗教、信条、慣習、規則など

⌧ 録音した内容を1回聞いた後、メモを取らず、要点を含めて聞いた内容を**第二言語で**簡単に説明する。

⌧ それを終えたら、テープを再度聞き、PLAYやPAUSEを使って一文一文を**第二言語に**訳していく。記憶、語彙、流暢さなど、発見したあらゆる困難な個所や障害をメモに取る。訳せなかった言葉の一覧を作成し、流暢に話せなかった事柄をメモに取る。

⌧ **第二言語で**自分の言葉を録音して繰り返し練習する。まず、聞いた内容を、**第一言語で**要点を含めて簡単に説明し、次にテープの**第二言語**の内容文の「2つ」のセンテンスを1回で**第一言語に**訳してみる。再び、発見した困難な個所や障害をメモに取る。

⌧ 夜のニュースや受講している講義を録音する。はじめは記憶のみを行い、書き留めはしない。あなたの言語能力について他の人から意見をもらうのも良い。

言語能力の弱点部分は発見できただろうか。語彙、文法、記憶、話題に関する知識などで、改善が必要なのは何か。話題について話す妨げとなるものは何かあったか。テスト終了後、言語プ

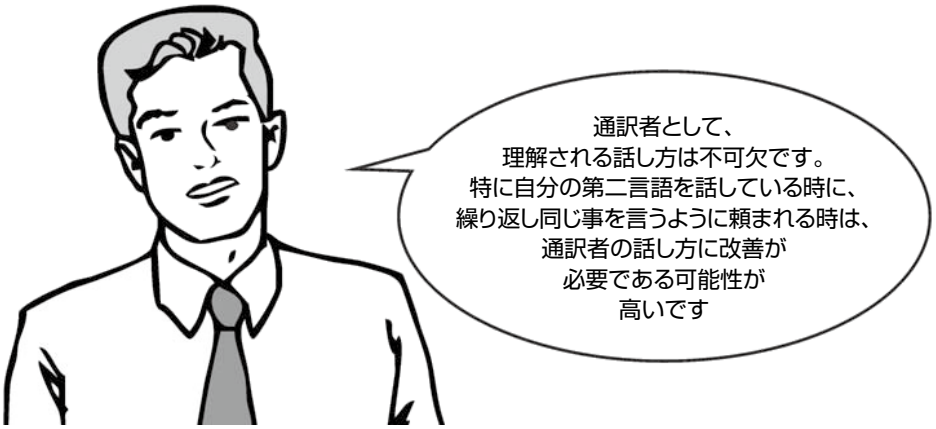
ロフィールカードを修正する必要があると思うか。それはなぜだろうか。

留意点

通訳言語の能力を向上させるためにできることは数多くある。たとえば、難民等の問題を幅広く扱った新聞、記事、書物を読んだり、定期的にニュースを見たり聞いたりすることである。これができない場合には、他の人に助けてもらう。1つの言語に堪能であっても、特定の分野に限定されており、これ以上向上できる余地はあまりないと判断した場合は、カードを更新し、指導責任者と共有する。

7. 通訳者になるためにすべきことは他にあるか

上記の練習に加え、プロ通訳者の助言に従い、その通訳者の提案する練習を行う。



- 母音と子音の練習をする。特定の母音、子音、または母音+子音の音節を明瞭に発音するのが難しい場合は、口と咽喉のどの部分を使用する必要があるのか見つける。
- 発音を学ぶ。アクセントが単語のどこに来るのか特に注意する必要がある。疑問がある場合は、その言語の母語話者に質問をしたり、辞書で調べたりする。
- 慣用句や強勢を学ぶ。一群の単語が自然に流れるよう発話を調整し、発声を調節して単調にならないようにする。これによって、通訳が容易になり、聞く方も苦痛でなくなる。
- 発声を向上させる。すでに見てきたように、発声の仕組みを理解すれば明瞭に発音できるようになる。同じことは発声の質にもいえる。力を抜き、正しく呼吸することも重要である。というのは、通訳者の発声の質は、それを聞く者にとっても重要であるからだ。歌を歌うのも良い練習になる。

さてジョン、UNHCRでの
君の通訳言語を決めても
いいかい?
はい。
スコットランド英語
とアラビア語
エジプト方言に
します

第Ⅱ章　社会を背景とした言語

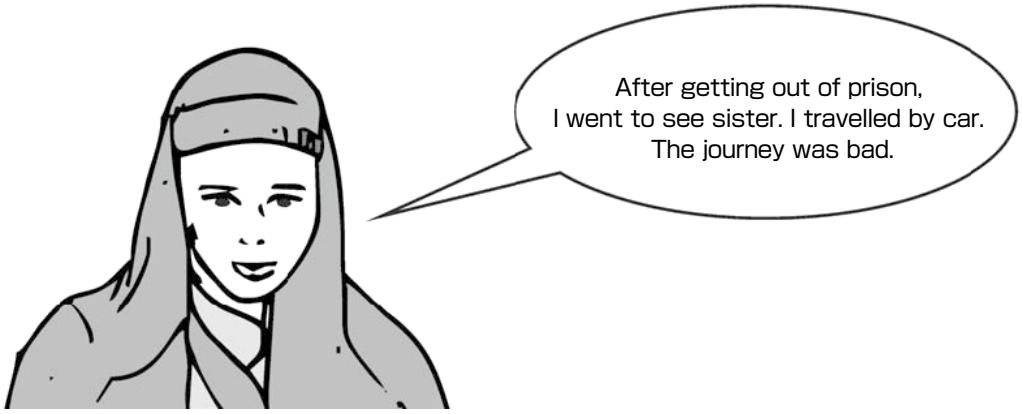
本章では、以下の項目について学ぶ。

- 「意味」が「単語」や「表現」とどのように関係しているか
- 通訳中、言語的中立性をどのようにして保つか
- 通訳者はいかに「意味」に感情的に反応するか
- 通訳に対する共通の言語的障壁をどのように克服するか
- 一語一句の直訳と慣用句的訳の違い
- 通訳を行う際に個人的な用語集作りがいかに大事か

A. 意味の理解

1. ひとつの単語にどれほどの数の意味があるか

言語、考え方および個々人の経験の関係性を前章で取り上げたが、ここでは、ある人のある言い方において表現される「意味」の持つ様々なレベルについて検証する。面接対象者が面接の最初に言う内容を検討し、分析して訳してみよう。開始前に英語の辞書を入手しておくことが望ましい。



Q.

- 彼女はどのような場所から出てきたのか。詳細に説明せよ。
- 「sister」とは誰か。
- 彼女が利用した交通手段は何か。

面接対象者が使用した単語を辞書で調べれば、それらのほぼすべては複数の意味を持つか、意味が非常に近い別の単語に置き換えることができることに気づくはずである。これを理解しておくことが、聞く際にも訳す際にも重要である。というのは、**人は理解したことを通訳する**からである。理解していることと意味することが異なる場合、訳したものは間違いとなる。同一の文に対する可能な通訳を検討してみる。

指摘したように、これは可能な**解釈**である。これが通訳者として行うことである。**訳す**だけでなく、**解釈**もするのである。つまり、通訳者は話者がその発する言葉によって言わんとしている意味が何かを判断するのである。通訳者は、自分の知識と経験に基づいてこれらの判断を行うことになる。たとえば、「prison」の意味は1種類のみ、つまり**刑務所**のみを知っているとする。**面接対象の女性の出身地域を推測した後**、その地域ではバス以外の交通手段がないため、彼女は**バス**で移動したに違いないと通訳者は結論付けることになる。女性はまた、その外観と話し方からキリスト教徒のようであり、その地域の修道女は故郷を追われた避難民を助けることで知られている。また、同地方の道路網についての自身の知識に基づき、通訳者は彼女がbad（「悪い」「ひどい」）道のりと言ったのをnasty（「不快な」）道のりだったと言い換えるに至った。

留意点

前章で示唆したように、意味は、自分なりの現実のとらえ方にのみ関連付けると変わってしまうことがあるということを、絶えず自覚しておくべきである。上記の通訳者の訳とより**中立的な**訳を比較してみる。

プロの通訳者は中立であろうとする。プロは聞いた内容に「干渉」しない。「prison」は犯罪者を合法的に拘束する場所という意味しかないのか。英語辞典を調べ、面接対象者と上記の最初の通訳者が使用した単語の持ちうるすべての意味を一覧にしてみよう。

prison : a)_____; b)_____; c)_____;

d)（隠喩的表現）*He hated studying. It was a prison to him.*

sister : a)_____; b) 女性看護士; c)_____;

d)_____.

car : a) 自動車; b)_____; c)_____.

to get out : _____. ***to escape*** : _____

bad : _____. ***nasty*** :_____

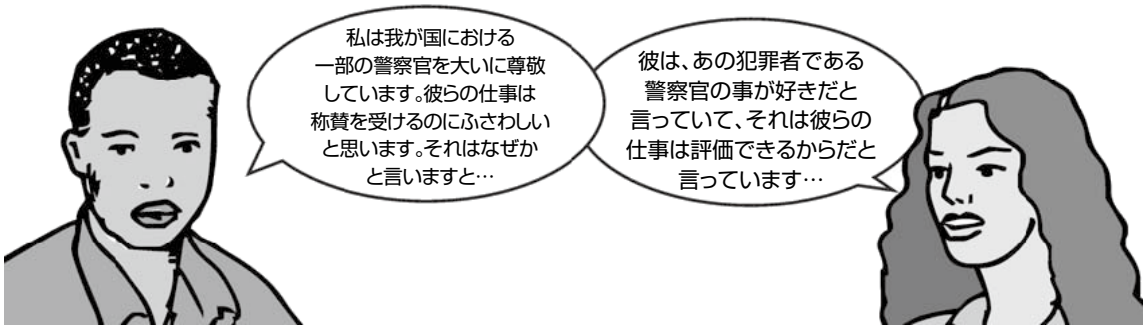
留意点

中立的通訳は、どの言語でも多くの単語には最低3段階の解釈の方法があるという事実に対応するための最適な方法である。意味の3段階は、「現実」に対する個人的な考え方や理解の仕方、そうした考えや理解を言語を通してどう表現するかによって異なってくる。意味の3段階は以下の通りである。

- 基本的な意味。「prison ＞ 拘束場所」の場合のように、単語を語幹や語根だけでとらえた場合の意味。
- ある単語を聞いて、その単語から連想される意味。原義と異なっている場合もある。同じ言語の異なる方言間で起こることが多い。
- 単語が表す意味。たとえば、bad（悪い）と terrible（極端に悪い）には同じ意味もあるが、terrible のほうは話者がその道のりで本当に嫌な思いをしたことを意味する。

2. 最も「危険な」意味の段階はどれか

通訳する際に意味がいかに重要であるかを検討する別の見方として、聞いた単語や概念に対して自分が取りうる反応、また、その反応が自分の通訳の質にどのような影響を与えるかについて検討してみる。次の通訳者の言動に注目しよう。



通訳者（女性）はなぜあのように反応したと考えるか。彼女が嫌悪の表情を浮かべ、信じられ

ないといった様子で頭を振っているのがわかるだろうか。面接官はそれがわかったが、彼女がそうしている理由まではわからない。面接対象の男性は話し続ける。

上記の例に登場した通訳者もまた難民であり、出身国で長年、政府の反対派として政治活動を行っていた結果、そのような通訳をしたのである。彼女は平和主義者でもあり、兵役に服することを拒否していた。このため彼女は逮捕、投獄され、最終的に拷問された。彼女は何とか本国から逃れて以来、本国の軍事政権が犯した残虐行為を絶えず非難し続けている。

留意点

通訳の質が落ちる最も一般的な原因の1つに、通訳者が話された内容や、時には話者についての自身の個人的な考え方に無意識にとらわれて通訳してしまう傾向にあることが挙げられる。こういったことが起こると、通訳者は話者の言葉の意味を分析し、中立的に訳し、問題のありうる部分を指摘することができなくなる恐れがある。

その結果、話者の言葉に対する通訳者の翻訳を通じて新しい段階の意味が生み出される。その訳は、通訳者自身の意見、感情、および語られた内容に対する判断を反映していることがある。これは、**意味に対する感情的な反応**と呼ばれる。

Q.

- どの「意味の段階」で、通訳者の感情的反応が関係してくるだろうか。
- 面接対象者の話を聞きながら、通訳者には何が起こっていたと思うか。
- 通訳者が感情的に反応し、誤訳につながるのを防ぐにはどうすればいいと思うか。

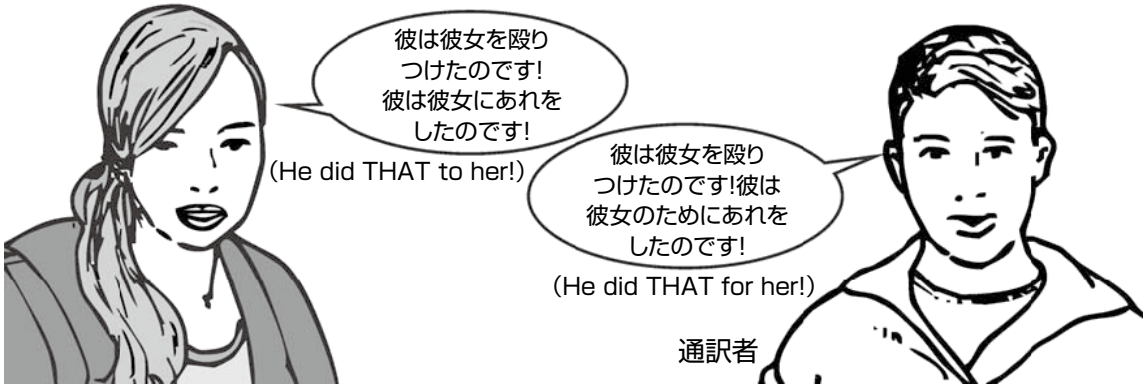
3. すべての言語において、意味は同じ方法で表現されるのか

ここまで、言語がいかに文化を表現するものであるか、つまり、個人の世の中の見方は、その生い立ちや個人的経験、過去と現在の社会的背景の結果であることを簡単に検証してきた。そうした見方が言葉、つまり意味になり、それを正確に通訳するのが通訳者の仕事である。

そこで、人はこうした理解を具体的にどう表現するのか、という重大な問題にたどり着く。つまり、自分なりの世の中の見方、系統の立て方を表現する言葉の特徴とは何だろうか。

一般的な認識

●すべての言語は同じように機能する
●1つの言語で機能することはすべての言語で機能する
●翻訳とは、単に単語の置き換えに過ぎない



Q.

●2つの文の違いは何か。
●通訳者はその違いを認識していると思うか。
●通訳者が話者の意味を変えてしまったのは、何が原因だと考えられるか。

各言語の違いは、特定の意味を表すために様々な単語を組み合わせて順序付け、文にする方法にある。例に登場した通訳者が通訳の中で述べたことが本当に意図していたことであった場合を除き、通訳者は単語の組み合わせを誤ったか、通訳者の方言で「**he did that to me（彼は私に対してそれをした）**」を表す表現法が「he did that for me（彼は私のためにそれをした）」であった可能性が高い。

4. 主な違いは何か

もし、上記の例に登場した通訳者が面接対象者の言葉を英語に訳す際に正しい前置詞を使用していたら、2つの言語は等価になっていたはずである。

留意点

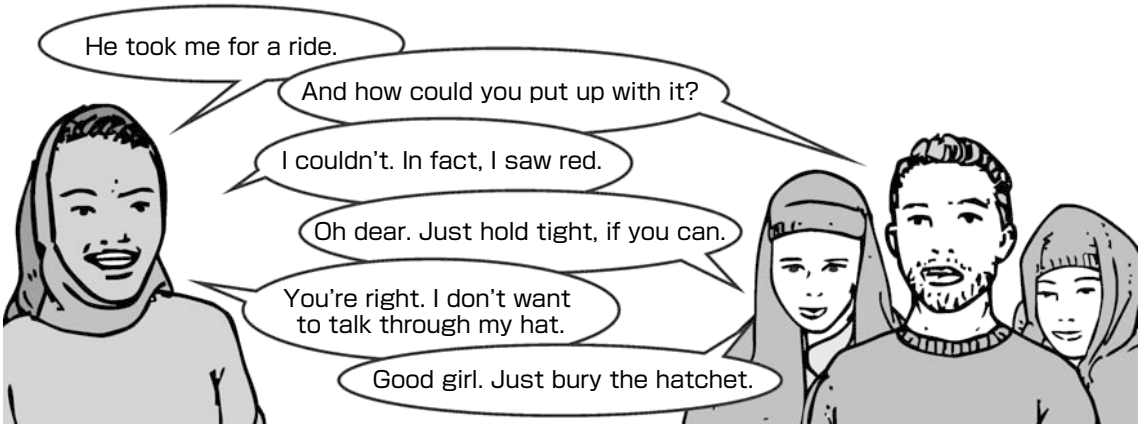
等価とは、二言語間で**意味が一致すること**を意味する。時に、実現は非常に難しい。このような困難な状況は通常、目標言語で同等の単語や表現を見つけだせない時に起こる。同等の単語や表現が存在しないこともある。こうした場合でも、元の意味を対象言語に訳さなければならない。

訳す単語が**文化等に関係**しているため、同等の単語を見つけられないこともよく起こる。つまり**それは、通訳者が携わっている言語が話されている地域でのみ存在する、あるいはその地域を中心に見られる物、宗教的伝統、ある種の行為、食べ物の種類などを表す単語**の場合である。それが何であるのか知っていても、訳し換えるための単語がない。これは、その特定の地域の人々だけは日常的にそれについて話すので、その物や概念に名称を付ける必要があることから起こる

現象である。それが他の地域でも知られた概念であっても、その他の地域での人々の生活に関係のないものであれば、その概念に相当する単語が同地域の言語にない場合がある。

一方、等価の単語が存在し、通訳者がそれを知っているとしても、使用するにはあまりにもリスクが大きい場合もある。これは通常、慣用句や慣用的表現について起こる。

以下の会話を検討してみる。



Q.

- 上記の対話を通訳言語に訳すとすれば、どのように訳すか。
- それを直訳した場合、どのようなことが起こるか。
- 知っている**文化等に関連した単語**を考え、それを訳すこと。

留意点

慣用句は常に使用される。その使用頻度は想像以上に高い。慣用句、特に慣用的表現は、言語で表される現実に対する理解度を示す最良の例である。というのは、それらは人々が物事を理解する方法に関連していることが多いからである。たとえば、色（**赤**など）に意味を持たせたり、特定の地域の伝統的なもの（**帽子**など）を使用したりする場合である。

言語は一般的に、ある単語と単語を組み合わせるものである。こうした組み合わせは理解するのが難しい場合が多い。この組み合わせを**コロケーション**（連語）という。以下の例を見てみよう。

Q.

- dry voiceとはどういう意味か。通訳言語に類似のコロケーションはあるか。自身が話す言語でdry voiceはどのように言うか。

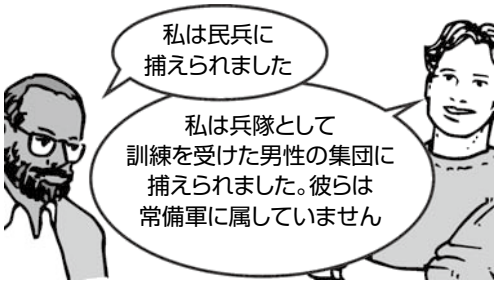
B. 意味の訳

1. 意味を訳すための最も有効な技術は何か

意味に関して使用言語を分析する際は、**言い換え**（paraphrasing）の練習が必要である。というのは、言い換えの練習をすると、多くの場合、正しく訳すことができるからである。

留意点

言い換えることは、言われたり書かれたりした語を、理解しやすく、しかも元の意味を変更しない方法で再表現できる能力と定義できる。



言い換えに精通し、複雑な単語を含まない単純な文を作ることができるようになったら、次第に多くの慣用句、文化に関連した単語や表現を含む複雑な文を作れるようになる。この過程はかなりの時間を要するので、忍耐強さが必要となる。留意すべき点は、通訳中は常に着実さが求められるということである。

Q.

- どのような状況で、単語militiaを言い換える必要があると思うか。
- 面接のどの段階で、言い換えを多くする必要があると思うか。
- 47ページに示した慣用的表現およびコロケーションを言い換えることができるか。
- 頭に浮かんだ**文化等に関連する単語**を訳せるか。それを言い換えることはできるか。
- 言い換えは意味を訳すのに最も有効な技術であると言われるが、その理由は何か。

2.「一語一句直訳」するよう求められた場合どうするか

面接等の責任者であるUNHCRの職員がこの方法を用いるよう求めた場合、通訳者は、法的手続きにおける簡略化された説明や、簡単な事実言明を行う場合にのみ使うよう提案することができる。提案が受け入れられない時は、話者がその意味するところを正確に言うように求められない場合、あるいは話者が慣用句を使用していることを通訳者が示さない場合、慣用言葉は見落とされてしまいかねないことを指摘すべきである。つまり、話者は発した文ごとに、その意味するところを確認するよう求められることになる。以下の例を見てみよう。

Q.

- 上記の例では、何がうまくいかなかったのか。
- 自分が通訳者だったならどのように進めただろうか。
- **一語一句**の直訳と**慣用句的**通訳の違いとは何か。

留意点

一語一句直訳するやりかたを採用するときには注意すべきである。通常、法廷、難民認定の面接などの法的な文脈では、この通訳法が好まれる。とはいえ、特に通訳対象の2人が互いに相手の言語について何も知らずに多くの慣用句を使用している場合、直訳は誤解を招く恐れが非常に高い。元の語と全く同じ単語を用いてhe took me for a rideという文を訳そうとしたら、混乱してしまうだろう。

3. 逐語逆翻訳は役に立つか

逐語逆翻訳として知られる技術を適用することは、決していい考えではないことを認識しておく必要がある。逐語逆翻訳では、面接官は取ったメモから通訳者の訳を読み返し、通訳者にそれを折り返し逐語訳で面接対象者に伝えるよう求め、さらに面接対象者にその意味を確認するよう求める。慣用的な意味を確認するのは難しいため、この方法は訳の正確性を保証するものではない。以下の例を見てみる。

逐語訳	逐語逆翻訳
i.（面接官）And what did she do? *（それで彼女は何をしたのか）* ii.（面接対象者）She took me for a ride*（彼女は私をだました）* iii.（通訳者）She took me for a ride	iv.（面接官）She took you for a ride? *（彼女はあなたを車で連れ出したのか）* v.（通訳者）She took you for a ride? vi.（面接対象者）That's right. *（その通りです）*

留意点

しかし、上記のような例から、難民関連面接では慣用句的訳が理想的な解決策であるという結論にはならない。実際、特定の通訳・翻訳訓練を受けていて、2言語に非常に堪能（つまり、母語話者のレベル）であり、少なくとも数年間その分野で働いた経験がある場合を除き、難民の面接中に聞いたすべてを慣用句的に訳すのは良い方法ではない。

慣用句的訳では、通訳者として携わる両言語の能力に優れていることだけでなく、それぞれの言語で表現される文化的側面にかなりの知識を有していることも必要とされる。言い換えれば、常に両言語で考えたり、両言語を切り替えて話したりする能力が必要なのである。これができない場合は、通訳者の言語能力に基づいて一語一句の直訳と慣用句的訳のいずれかに重点をシフトさせながら、バランスよく組み合わせて使用すべきである。

その組み合わせの均衡の保ち方の決定は、段階的に進める必要がある。まずは言い換えを重視し、一語一句の直訳と慣用句的訳は考えないことにしよう。この言い換えの技術を習得すると、徐々に慣用句的訳へ移行することができる。ただし、言い換えの技術を生かすだけの経験と知識を得ていると確信できる場合に限る。

C. 用語集作成

1. 用語集とは何か

ここでノートを購入し**用語集**とする。このノートは個人的な辞書となる。1冊目に空白ページが少なくなった時は2冊目、さらには3冊目と買い足していくことになる。

2. 用語集はどのように機能するのか

自作用語集は、3つの基本原則に基づいたものにする。

i. 通訳言語の辞書が入手できない場合を除き、辞書に載っていない単語を用語集に載せる。この場合、自分にとって目新しい語彙のみを記入する。

ii. 記録する単語や表現は、アルファベット順に載せるのではなく、意味に基づき適切な分野に載せる。

iii. 記録するそれぞれの単語や表現とともに、対象言語の同等語句（ある場合）、適切な言い換え、その使用法を示す例、および対象言語でのこの例の訳を記入する。

3. 用語集の構成はどのようにするか

意味の分野に基づく用語集の構成を説明すると、多くの単語を一覧に記載し、それらの一覧ごとに**見出し語**を付ける。見出し語は、項目の部類または意味の分野に用いる抽象概念と一般名称のどちらも見られる。

VEHICLE（乗り物）	TIME（時）	RELIGION（宗教）	POLITICS（政治）	EMOTION（感情）
車	時間	イスラム教	政党	怒り
自転車	分	ミサ	選挙	幸せ

乗り物、時、宗教、政治、感情は、意味の分野または単語ファミリーと見る。単語ファミリーの有効性を調べるには、次の文を模範例として使用できる。「**車は乗り物であるが、乗り物が車であるとは限らない**」、「**イスラム教は宗教であるが、彼の宗教がイスラム教であるとは限らない**」、「**幸せは、普段彼女が見せる唯一の感情である**」

留意点

単語ファミリーは、意味の分野を表すだけでなく、単語X（たとえば、非常に高い山に登った後に体験する特別な感情を表す単語）の同等語があるかどうかあまり確信がない時に、訳語に使うこともできる。そのため、言い換えは「EMOTION（感情）」という言葉の後に置き、その感情の描写および対象言語への訳語をその後に続ける。単語Xの使用法を示す文を入れるのも有用である。

自分の用語集を作成する際には、小区分を作り、その中に、たとえば、EMOTIONS（感情）やVEHICLES（乗り物）などに関係するすべての慣用的表現を記載することもできる。そうした表現を記入する場所（実際の意味の下や、表現に含まれる主要語に従うなど）を決めるのは、本人である。

4. 用語集作成が重要な理由は何か

用語集作成とは、語彙を増やし、通訳技術を磨き、使用する言語の機能の仕方について認識を深め、法的、医学的、政治的な単語や語句などの特有の専門用語の一覧を作成し、常にそれを携帯して必要な時には使用できる、通訳用の非常に重要なツールを手に入れるために良い方法である。

自己学習用問題

1. 以下の質問に答え、その理由を説明しよう。

南アフリカのアフリカ民族会議（ANC）はテロ組織（terrorists）であったか、それとも自由解放組織（freedom-fighters）であったか。

回答後、テロ組織（terrorists）と自由解放組織（freedom-fighters）の2つの単語から導き出せるすべての意味について検討を行い、また、各語の意味には何らかの違いがあるかどうかを分析しよう。

2. 以下の短い話を読み、できるだけ多くの単語の一つ一つから導き出せるすべての意味について検討し、言い換えよう。それらを中立的に、通訳言語に通訳しよう。

70年代前半の3年間、私は8番マーケットでサンフランシスコ市営鉄道のトローリーバスの運転手をしていた。マーケットストリートは大通りで、多様な層の人々が毎日往来する。私はラッシュアワーの始まる頃に出社し、夜のあいだ運転した。初めのほうに運転したいくつかの路線では、金融街から商業地区のちょうど西に当たる住宅地区まで会社員を乗せていた。夜遅くなると、乗客層の多様性は少なくなっていた。それは、夜勤者・遊び人、そしてマーケットストリートの「常連」だった。常連はマーケットストリートかその付近に住む人で、ほぼ例外なく居住用ホテルか短期滞在型ホテルで暮らしていた。福祉宿泊所として最大規模のホテルは、リンカーンとして知られる巨大なビルであった。マーケットストリートの端に近く、海岸から1ブロックのところにあった。[1]

3. 通訳者は話し言葉を扱う。翻訳者は書き言葉を扱う。

正　□　　誤　□

4. 理解できない言葉があったら、文脈から推測しても良い。

正　□　　誤　□

5. 自分が話すことのできる言語はすべて、通訳可能な言語といえる。

正　□　　誤　□

1 『I thought my Father was God』(ed. Paul Auster (New York: Picador USA, 2001)) に収められたVan Kooy, R.C.著「The Iceman of Market Street」(pp. 168-70)

6. 方言は、少数民族によって話される重要でない言語に過ぎない。

正　□　　誤　□

7. 教育を受けていない者は、通訳者になることはできない。

自分の考えを書き出し、それについてあなたの指導責任者と議論してみよう。

8. 通訳中、感情が思考に取って代わることはない。

自分の考えを書き出し、それについてあなたの指導責任者と議論してみよう。

9. 自分自身の考え方が通訳の仕方に影響を与える場合がある。

自分の考えを書き出し、それについてあなたの指導責任者と議論してみよう。

10. 一語一句の直訳のみが正確な通訳を保証する。

自分の考えを書き出し、それについてあなたの指導責任者と議論してみよう。

第Ⅲ部
通訳者の手引

人が話している内容の「意味」を分析するのは主観的な行為である。というのは、「意味」というものは、少なくとも部分的には、話者が所属する、または愛着を感じている集団、コミュニティ、地域、または国に左右されるからである。

第Ⅲ部では、難民関連の面接での通訳の詳細に焦点を当てる。第Ⅲ部の目的は特に、通訳を求められた場合、いつでもどこにでも持っていくことができる自分自身の手引（資料）を作るのに役立つ情報を提供することである。

その手引から、質の高い通訳を提供するために使うべきテクニックや資料を見つけ出すことができるだろう。

第Ⅰ章　通訳の手順

本章では、以下の項目について学ぶ。

- 逐次通訳として知られるテクニック
- この技術を効果的に実践するために行うべきこと
- 理解の入口であるアクティブリスニングの方法
- 様々な種類の発話に対処する方法

A. 逐次通訳

1. 逐次通訳とは何か

逐次通訳では、比較的短時間（1文または2文）話者の話を聞き、どういう意味なのかを理解し、頭の中でその意味を通訳し、それを目的言語の言葉に訳す。その通訳を終えたら、続けて話者に別の文（1文または2文）を話させ、同じ過程を繰り返す。

逐次通訳	同時通訳
●難民関連の通訳で広く用いられる ●双方向(B言語からA言語へ、およびその逆) ●多くの場合特殊な機材が不要 ●対話に用いられる	●会議で広く使用される ●単一方向(A言語からB言語へ) ●特殊な機材を必要とする場合あり ●スピーチに用いられる

場合によっては、文書、書類、証明書、手紙、陳述書などを逐次的に訳すよう依頼されることがある。その時は**その場で**訳す。

Q.

- **同時**とはどういう意味か。逐次通訳に対して、同時通訳として知られる技術をどのように説明するか。
- **要約**とはどういう意味か。逐次通訳に対して、要約通訳として知られる技術をどのように説明するか。要約通訳はどういった状況で適用できるか。
- 難民関連では通常、同時通訳や要約通訳などのテクニックよりも逐次通訳が好まれる理由は何だと思うか。

留意点

逐次通訳が難民関連の面接で好まれる理由の1つは、面接に**人間と人間との触れ合い**という要素が加わるからである。つまり2人の話者は、即座に通訳者に注意を向けるのではなく、まず互いに顔を合わせ、話したり聞いたりする機会を持つからである。加えて、通訳者が連続して通訳を行うと、2人の間の会話を円滑にするどころか、むしろ中断させてしまうことになる可能性が

高い。

2. 逐次通訳を上達させるには何をすべきか

以下の例の通訳者の言動を検討すること。

Q.

- 自分は聞き上手か。聞いていなくて、よく聞き逃すことがあるか。
- 他の人の話を聞いている時に集中力を維持するために、個人的にどのような戦略を立てることができるか。

留意点

アクティブリスニングを妨げるものが何かを認識することが重要である。妨げとなるものを感じたらすぐにそれを認め、少しの間通訳を止めて、通訳を継続できるかどうかを決めることを勧める。できると思ったら、話者の言葉にのみ集中することに全力を傾けるようにしよう。

3. アクティブリスニングとは何か

人は、互いに話をする時、必ずしもいつも相手の話を聞いているわけではない。自分自身の考え、感情、問題などについて考えている場合や、好印象を与えることを何か言いたいと考えている場合もある。こうしたことは、討論、議論または口論の最中によく起こる。

通訳者、**特にある程度経験を積んだ通訳者**は、知らず知らずのうちに、面接対象者が述べていることをすでに何回も聞いたと思い込んでしまう。その結果、注意深く聞かなかったり、面接に関係ないことについて考えたりする恐れがある。

自分のアクティブリスニング能力を試し、改善させるには、2、3分、あるいは記憶力がよければさらに長い時間、友人に話をしてもらう方法がある。話が終わったら、友人が言った内容を正

確に反復する。きちんと反復できたかどうかは、友人が確認する。もし話を**誤訳**していたら、友人が教えてくれるだろう。

4. 通訳者にとってアクティブリスニングが重要な理由は何か

アクティブリスニングは理解のための入口である。ジョンがよい通訳者について何と言っていたかを覚えているだろうか。

アクティブリスニングを行うと、通訳者は以下の結果が得られる。

- ⌫ 話を聞く。話者の言葉にしっかりと注意を向ける。
- ⌫ 話を聞く。話者の言葉に意味があり、それにすべての注意を向ける。
- ⌫ 話を聞く。話者の言葉の意味を理解する。
- ⌫ 話を訳す。話者の言葉の意味は別の言語に置き換えられる。

5. 聞くことと理解することについて、他に知っておくべきことは何か

理解の過程で、様々な種類の発話を通訳する準備もできていなければならない。以下のそれぞれの友人の話を注意して聞いてみよう。

Q.

●誰の話があいまいか。シンプルな描写をしているのはどれか。やや矛盾しているものが1つあ

る。あることについて結論づけているものが1つある。また、誰がレトリックを使って話しているか。
●何が発話のあいまいさや矛盾を引き起こすと思うか。
●通訳者にとって理屈やレトリックを使った話し方が問題になる理由は何か。

留意点

どのような話であっても、時間的なフレームが重要であることに注意しよう。話者は多かれ少なかれ時間系列で話をする。また、時間軸を行ったり来たりする場合もある。

口語は文語ほど体系化していない。人は文を完結する途中で話を止めたり、一見すると話している内容と無関係なことを話し始めたりする場合が多い。しかし、その新しい主題は、話の内容と関係していて、話の後半でやっとそれに気付くという場合もある。

6. 話の内容を最大限理解するにはどうすればよいか

人の話している内容を分析するうえでの第1段階は、話に出る本筋と副次的な考えを確認することである。第2段階は、本筋と副次的な考えがどのように関連し合っているのかを把握することである。この2段階は、自然に行えるようになるまで練習すべきである。

以下の文章を最後まで読んでみよう。

彼は私を放してくれなかったので、私はそれに激怒しました。それは、私は周りから指図されるのが嫌いだからです。しかし、私は彼に苦しめられていましたが、一緒にいていつも楽しかったとは言えます。彼は常に暴力的でしたが、一方で最初の妻には触れもしませんでした。これはまた別の話ですが。そう、彼は私が浮気をしたと非難もしたので、彼に激怒していました。浮気をしたのは私ではなく、最初の妻のほうです。なのに、何の権利があって彼は私を責めるのでしょう。教えてください。私には全くわからないし、どうしていいのかわかりません。それで、あの日、実際に家を出て、「彼も彼の最初の妻もくたばってしまえ」と密かに考えました。

Q.

●この文章の中で、他よりも重要性が高いと思われる考えや概念は何か。
●重要性の低い考えや概念は何か。
●これらの考えはどのように関連し合っているか。
●伝えたい内容を変えずに、文章を完全に再整理することはできるか。
●44 ～ 45ページで、面接対象者が、出身国の警察官を賞賛するのを聞いているうちに感情的になった通訳者の例をもう一度見てみよう。例の中で通訳者はいつ話者の話を止めるだろうか。またそれを、逐次通訳と、上記の文章を読み終わって導き出した自分の結論に関連付けることができるか。

7. 聞くこと、理解すること、訳すこと…は同時に行うのか

その通りである。頭の中で聞くこと、理解すること、翻訳することの3つの過程はほぼ同時に起こるのだ。話全体を聞くことはできないので、話の様々な部分、いわゆる話の断片だけを聞く

ため、恐らく上記の文章を逐次的に通訳する場合と同様に、本筋と副次的な考えを結び付けることは、面接の始めは一層困難であると思われる。以下の通訳の状況を見てみよう。

Q.

- 自分なら、いつ面接対象者を（訳注：面接官と相談のうえ）止めて、通訳を開始したか。
- 面接対象者は事前に何について質問されたのだろうか。

第Ⅱ章　記憶力の問題

本章では、以下の項目について学ぶ。

- 自分の記憶力を認識する方法
- 記憶力の助けとなるテクニックとしてのメモの取り方

A. 記憶力

1. 記憶力は通訳者にとって重要か

先程の漫画を見ながら、記憶力、そしてそれが通訳者が聞いた話の様々な断片を結び付けるのにいかに役立つかという事実について考えさせられただろう。

留意点

訓練、高い集中力、様々な考えの関連性、図、そしてメモ取りを通じて、通訳者の記憶力の向上を図らなければ、逐次通訳のどの段階も達成することはできない。

> 記憶力がうまく機能すればするほど、逐次通訳は成功する。このため、自分の記憶力がどのように機能しているかを学ぶとともに、記憶力を向上させるために訓練することが不可欠である。記憶とは、話者の意図を目標言語に再構築するのに必要なあらゆる情報を一時的に保存し、取り出す場所である。

Q.

- 自分の記憶力についてどう思うか。
- 記憶をコントロールできているように感じるか。
- 何か記憶したい場合、通常どのようなことをするか。
- 57ページ（「逐次通訳を上達させるには何をすべきか」）のイラストのセリフをもう一度読み、逐語的に反復できるかどうか試してみよう。

2. なぜ人は記憶するのか

何かについて**気づいている**ことと、**意識する**ことは違うと考えられる。私たちは常に多くのことについて気づいてはいるが、それが自分にとって興味深くない、特異でない、あるいは珍しくない場合は、意識しない。多くの場合、何かについて意識するのは、それを特別な見方で見たり、独自に理解したりするためである。気づいているというのは、ほんの一瞬かそれより少し長い間に過ぎないが、意識しているというのは、記憶に長い影響を及ぼす。携帯電話をどこかで落としたというようなことにはわずかな間しか気付いていないが、初恋の記憶は忘れないものである。それは、意識の一部になっているからである。

- 気付いている状態とは、一時的にせよ、物事の知識がある、あるいは理解していることである。
- 意識とは、何が起こっているのかを考え、感じ、理解し、それについての知識を得ることができることをいう。

3. 気付くことと意識することは通訳の仕事にどのような影響を与えるか

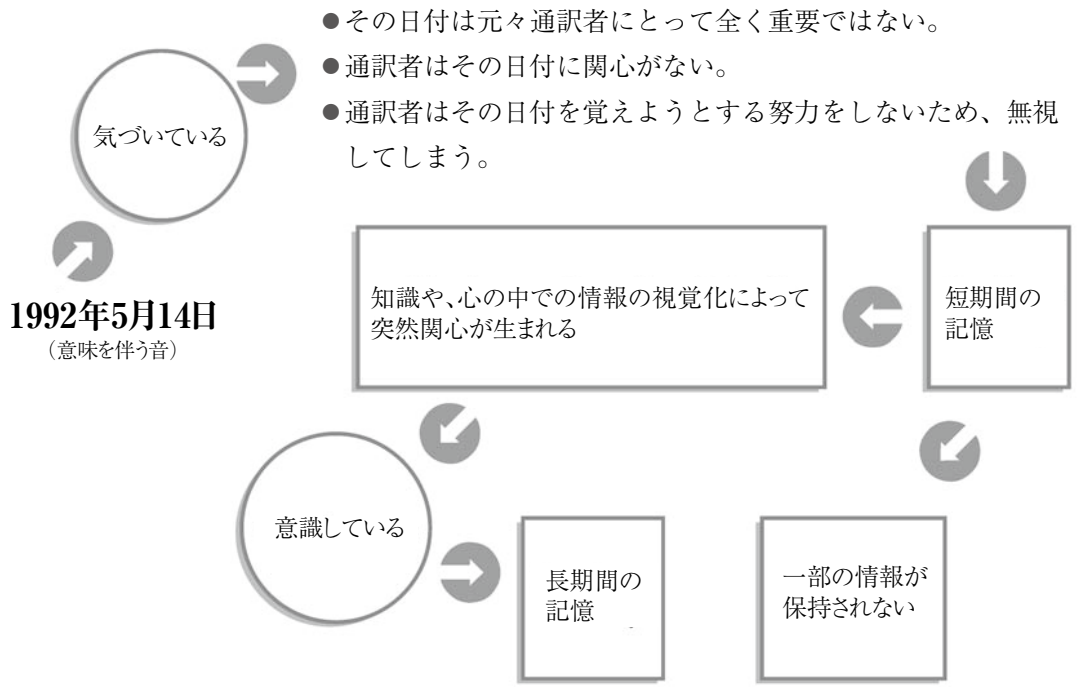
難民と面接官に通訳していると仮定する。面接の冒頭で、難民が日付について次のように言及したとする。

Q.

- 同様の状況で、自分ならどうしたか。

以下の図は、気づいていること、意識していること、および記憶に関する通訳者の反応をまとめたものである。

通訳者の反応



留意点

通訳者は、理解するのに必要な時間内で聞いたことを記憶し、少なくともその一部を解釈し、文脈に組み込むことができなければならない。言い換えれば、一つの話にするために、話のすべての断片を互いに関連付けさせなければならない。

第1段階は、気づくということである。つまり、単語を単語として、表現を表現として、数字を数字として理解し、そういうものとして認識し、頭の中で処理することである。次に、話の断片を超えてその関連性について考え、その意味に対する関心を深めなければならず、また、それから学んでそれを意識するために、その分析をしなければならない。

Q.

- 上記の図に基づいて、短期的記憶と長期的記憶を定義してみよう。
- 通訳者が情報の一部を長期的に記憶できるようにするための成功要因を挙げてみよう。
- 面接官にとって重要でないデータであると考えた時でも、そのデータを記憶できるようにする戦略を立ててみよう。

4. 記憶力を訓練することはできるか

記憶力を訓練すると、記憶への理解が深まり、記憶を制御することができる。記憶された情報の短期的および長期的な保存、およびその2種類の記憶間でのデータ移動を完全に制御すること

は困難と思われるが、以下の訓練をすることで記憶力を向上させることができる。

- 最長20分間、誰かが話すのを傾聴する。テープの録音であればより好ましい。声、イントネーション、および声帯特性に意識を集中させる。メモは取らないこと。
- 話されている内容を視覚化しよう。つまり、話の内容を画像、におい、色、空間、感情に変えてみよう。
- 意味、概念および観念に焦点を当て、話された内容を同じ単語を使わずに説明し直そう。
- テープを再生し、覚えていたことと忘れていたことを検証しよう。なぜそうなったのかを分析しよう。

次に、別のテープを使って同じ練習を繰り返す。話された内容を視覚化し（上記参照）、聞いている間、以下の手法を使ってみよう。

- 共通点のある項目に分類しよう。たとえば、トラや象は動物群に属する、など。
- 出来事、人々、物などの間の相違点と類似点を見つけよう。
- 出来事、人々、物などが互いにどのように関連し合っているのかを自問自答しよう。

これができたら、別の話を吹き込んだテープを聞こう。再生ボタンと一時停止ボタンを使って、その内容を通訳言語に逐次通訳しよう。上記の章**逐次通訳**で説明した手法を思い出しながら、上記の2つの練習の場合と同じ手法を使用し、第Ⅱ部で得たすべての言語技術も適用する。メモは取らないこと。

B. メモ取り

1. なぜメモ取りをするのか

これまで見てきたように、逐次通訳は、難民関連で最も使用頻度が多いと思われる技術である。逐次通訳は、2人の当事者間での公式な会話、特に面接において役に立つ。効率的に行うには、メモを取ることで記憶力を補強する必要がある。

メモは直ちに使用することを目的とし、考えが何の言語で表現されるか考えなくても、直ちに通訳者の頭の中と考えとが結び付けられるような単語、記号、符号が使われる。

2. なぜメモ取りが重要か

面接で効果的なメモの取り方により、以下のような結果が得られる。

- 自信が付く。記憶に頼りすぎるのは、特に疲れている時はリスクが伴う。
- 個別の単語、表現、データおよび数字ではなく、話された言葉の意味に焦点を当てることができる。
- 各話者は、通訳のために何度も会話を中断されることなく、自由に話すことができる。中断や言語の切り替えが頻繁に起こると、各話者の思考の流れが分断され、細心の注意が必要な会話で感情が関わる場合は、特に考えの論理性や明快さが失われる恐れがある。
- 日付、数字、色、大きさなど、話者が述べたのと同じ順で示された事実情報すべてを正確に報告することができる。

●通訳の訳出からメモを取っている面接官を助けることになる。通訳する時には、面接官にとって綴りにくい、またはわかりにくい名前を文字で見ることができるように、目標言語で表現している名前や数字を指し示すことができる。
●話者との信頼性を高める。というのは、通訳者がメモに従いながら通訳するのを見ることで、自身の発言の論理と構造が反映されていることを認識できるからである。
●面接官がある情報を確認したい場合、面接中、または直後に確認手段としてメモを使用できる。

3. メモ取りは記憶にどのように関連しているのか

前項で言及したように、視覚化は記憶するのに有益であり、メモを取ることは話者の言葉を視覚的に表すことである。2人の話者が通訳者を介して話していることを忘れるのが理想的な姿であるため、通訳者は、可能な限り自然な形で、言葉の意味の解読に最小限の努力をしてメッセージを伝えられなければならない。**最低限**、メモには以下を含めること。

i. 名前、日付、数字
ii. 長期的な記憶はもちろん、短期的な記憶に保存されない可能性のある事実、説明およびその他の詳細な情報

例：

1999年、私の属する民族の245人が異なる5つの国に移住した。彼らのほとんどは20歳から25歳であったが、70歳代の老人も30数人いた。	99 245 --------->20-25yr< (30 = 70yr) 5 ctrs

4. 理想的なメモの取り方はあるか

下記の指針および実用的なヒントによって、逐次的で有効なメモ取りテクニックを習得できる。ただし、普遍的なメモの取り方はない。考え方や学び方が人それぞれであるように、メモの取り方も人によって異なる。そのため、逐次通訳でのメモ取りは非常に主観的である。ただし、最終結果は誰にとっても同じでなければならない。つまり、伝達するメッセージは、あらゆる点で話者が表現するメッセージと一致していなければならない。

留意点

逐次通訳に**速記**を利用すべきではない。その理由は以下の通り。

i. 数行の速記文は、一目で読む取ることができない。
ii. 速記文は、話者の発言を逐語的に再生産することであるため、復唱に時間がかかる。
iii.速記では、補足で追加された語句や考えを挿入するといった柔軟性が許されない。

5. メモ取りの別の例を見てみよう

自分が使用する単語、記号および符号を認識し、それが意味するものを記憶できなければならない。一目で状況を描き直すことができるようわかりやすく書き、大きな文字を使い、単語と記

号の間には十分なスペースを空ける。

例：

日時　　追加情報
主語　　形容詞
述語　　追加情報
目的語　　形容詞

At the beginning of the year 2003, I moved to the capital of my country, where I lived for two years in a small flat.（2003年始めに私は出身国の首都に移り、2年間小さなアパートに住んだ。）

03 beg
I
----> d　　sm. flat / 2yrs
capital
home

こうした論理的な分析により一目で必要な情報すべてを把握できる一方、思い浮かんだ第一言語の単語を臨機応変に利用することもできる。訳すのに障害となる原因を事前に取り除くには、対象言語でメモを取ることが最良である。正確な訳を考えられない場合は、耳にした単語をメモに取り、通訳中にその考えを自分自身の言葉に言い換える。

6. メモ取りには、どのような符号を使用できるか

符号の選択は重要である。通訳者自身の論理的な考え方に合った方法を考案する必要がある。通訳者自身の方法を生み出す場合は、記号や符号を作る必要がある。これらの記号や符号は単語を省力化したものであり、通訳者が聞いている言語や組み入れる言語など、あらゆる言語に再現できる。

例：

ppl > people（人々）
ctr > country（国）
wrld > world（世界）
pce > peace（平和）
spch > speech（話、スピーチ）
cnv > conversation（会話）
mny > money（金銭）
pol > politics（政治）
econ > economy（経済）
inter>international（国際的な）

これらや、その他の単語の省力化をもとに、確実にかつ直ちに連想可能な独自の省力化の方法を作ることもできる。例えば、以下の例のように省力化された単語に一文字を付け加えることでできる。

r-ppl > refugee(難民)
d-ctr > developing country(発展途上国)
g-wrld > globalization(グローバル化)
a-pce > peace agreement(和平合意)
c-spch > conversation(会話)
m-cnv > meeting(会議)
bk-mny > bank account(銀行口座)
el-pol > elections(選挙)
fin-econ > financial situation(財政状況)
rel-inter>international relations(国際関係)

7. 符号を使ってどのように出来事を時系列に述べることができるか

話における時間枠が重要となる可能性もある。動詞の時制や動作の時間を正確に示す方法を考えてみよう。

例:

he works > wk n	he will work > wk ll	he worked > wk ed,
he doesn't work > X wk n	he won't work > X wk ll,	he likes to work >

8. 寸法、大きさなどについてはどうか

口語では数量や強さを表現することがよくあり、時には比較で表す場合もある。物や人の大きさ、上昇と下降、動き、距離、増加量や減少量を示すために、数学記号を使用できる。

例:

He is very tall(彼は非常に背が高い)	♂ ↑↑
She is growing faster than her brother (彼女は兄弟よりも成長が速い)	♀ ↗ > *bthr*
Cuba is smaller than Mexico (キューバはメキシコより小さい)	*Cuba < Mexico*
The value of the Egyptian pound has dropped but that of the American dollar has increased (エジプトポンドの価値が下落したが、米ドルの価値は上昇した)	*value LE* ↘ $ ↗

留意点

通訳中に出てくる可能性の高い国名、主要組織と団体は、略称一覧を持っておく必要がある。

9. 本筋と副次的な考えの関連性も示すことができるか

つなぎ言葉（接続詞等）もまた、数学記号や矢印などに置き換えることができる。矢印は話の要素間のつながりを示すのに役立つ。口語で不規則に挿入されることの多い追加情報は、ページの左側にメモできる。文の終わりは、3本のスラッシュで示すことができる。質問されていることを忘れないためには、スペイン語の逆疑問符が役立つ。訳に疑問がある時は、二重横線で示すと良い。

例：

"During his year in jail, John was insulted, severely beaten, and often deprived of food. He now lives with his sister-in-law. However, he incredibly managed to come out alive. Can you believe it?"

「投獄されていた時、ジョンは侮辱され、ひどい殴打を受け、しばしば食べ物を与えられませんでした。彼は今、義理の姉妹と暮らしています。それにしても、彼は驚くべきことに、何とか生還できたのです。信じられますか？」

now >▲ str in law ///　yr　| ins　|
↙　↘　John |　beat　| ed　??? alive
======*in Arabic???*　jail　|　X food　|　often
¿ blv

記憶もメモも、話の断片を下記のような訳文に書き直すのに役立つ：

John was in jail over a year. There he was insulted, badly beaten, and often left without food. He survived this experience. He now lives with his sister in law.

ジョンは1年間投獄されていました。獄中では侮辱され、ひどく殴打され、食べ物を与えられないことがよくありました。彼はこの経験を生き延びました。今は、義理の姉妹と暮らしています。

10. 他にコツはあるか

- コンマやカッコなどを含め、句読点を最大限に利用する。
  文法的用法に一致させる必要はない。通訳者にとって重要なことは、口語、話者の語り口、話し方、声域、口調、文化的様式などを記録することである。
- 通訳し終えた部分には長い斜線を引く。話者の話が止まった時は、直ちに最後の発言をメモに取り始めたページの個所に戻り、メモに「数秒以上かけずに」すぐに通訳を始める。
- メモを一瞥しながらも、頭を上げた状態で自分が話す相手を見る。聞き手の興味を逸らさないよう、自然かつ説得力のある話し方をする。黄金の法則は、通訳をする相手の立場になり、コミュニケーションを取って完全に理解してもらいたいという願いを通訳者も共有することである。

自己学習用問題

1. 逐次通訳とは、話者の話を要約することである。

正　□　　誤　□

2. 逐次通訳では、通訳者は話者の話を止めたい時にはいつでも止めることができる。

正　□　　誤　□

3. 話を分析する時、本筋と副次的な考えが何かを判断するのは、通訳者次第である。

正　□　　誤　□

4. 記憶力が短期的とは、物事を覚えるのが苦手ということである。

正　□　　誤　□

5. ある文章を同僚に読み上げてもらい、逐次通訳の練習（適切な時に【面接官と相談のうえ】話者を「中断」する練習）をしてみよう。本筋と副次的な考えを特定し、目標言語で話を整理しなおすことに焦点を当てよう。メモは取らないこと。

6. 雑誌から短い記事を取り上げ、鏡または同僚の前で、大きな声で音読してみよう。できれば細心の注意が必要な問題や感情的な問題を取り扱った雑誌が好ましい。正しい口調、はっきりした発音、読む時の適切な速さ（早からず遅からず）を習得する練習をしよう。音読中は、できる限り頻繁に自分の目または同僚の目を見るようにしよう。これによって、文全体または一部を素早く読み、記憶し、復唱することが自然にできる。同じ記事で逐次通訳をする練習をしよう。メモは取らないこと。

7. 同僚と一緒に、49ページのイラストのセリフ(「『一語一句直訳』するよう求められた場合どうなるか」)を大きな声でゆっくりと音読し、交代で目標言語に通訳しよう。同等語を探すのではなくできる限り言い換えよう。メモは取らないこと。

---

8. 別の文章(最長で半ページ分)を見つけ、同僚に最後まで、通常の速さかつ大きな声で音読してもらおう。逐次的なメモ取りの練習をしてみよう。同僚が読み終えたら、記憶とメモを使って、聞いた話を要約してみよう。この時、できるだけ原文に近いものにしよう。話すことのできる他の言語(できれば、第二言語か第三言語)でも繰り返し練習しよう。

---

9. ある文章を大きな声で同僚に音読してもらい、目標言語に通訳してそれをテープに録音してみよう。できれば細心の注意が必要な問題や感情に訴える問題を取り扱った記事が好ましい。交替の仕方、同等語の見つけ方、言い換え、メモ取りの練習をしよう。練習の終わりでは再生ボタンと一時停止ボタンを使い、同僚に自分の通訳を元の言語に逐次的に翻訳し直してもらおう。2つの訳を比較し、その違いについて議論しよう。

第Ⅳ部
さあ通訳をしよう！

第Ⅳ部では、二者、時にはそれより多くの人たちの間で、コミュニケーションがうまく行われるように手助けをする場面に焦点を当てる。

通訳の際、通訳者には透明性を伴う正しい行動が求められる。通訳の手順に関する包括的な情報は、倫理的な通訳行動に関連する質問という形式で示される。

第Ⅳ部ではまた、席の配置や異文化コミュニケーション関連など、通訳手順の範疇には入らない、一般的で実用的な通訳の問題についても説明する。

ここで説明する通訳手順は、あらゆる状況に機械的に適用すべきではない。このため、難民とUNHCRの職員との間の法的問題にまつわる面接とそうでない面接を比較する。

通訳者と面接官は協力して、特定の状況で用いるのに最も適した通訳方法を決定することが求められている。

第Ⅳ部

第Ⅰ章　基本的な通訳手順

本章では、以下の項目について学ぶ。

- 通訳活動における文化の違いの重要性
- 通訳中にプロ意識をもって行動する方法
- 通訳中に直面する一般的な障壁を克服する方法

A. 正確かつ明確な通訳

1. 面接での通訳者の主要な仕事は何か

難民関連の面接での通訳をするには、難民が保護と支援を求めるうえで必要となる法律についての専門知識や他の知識・技能をUNHCRの職員が提供するという趣旨を理解していなくてはならない。面接を通じて、難民は自らの状況、不安、恐れ、期待、問題、過去などに関する情報を提示する。通訳者の仕事は、**2人の当事者が提示する必要のあるものを、操作、管理、修正、改善したり、おとしめたり、短縮したりすることなく自由に提示できるようにすること**である。そのため通訳者は、面接官と面接される人の両方との間に信頼関係を築く必要がある。

2. 通訳者は文化的な違いに対応することが期待されているか

通訳者は文化の専門家として、または出身国の情報源として振るまうには期待されていない。通訳者の役割とは、面接官と面接対象者が理解し合っていないと感じた時、あるいは話者の話が理解されていないか、話者が理解していないと話者自身が感じた時に介入することである。この役割を果たすために両当事者が使用する言葉に焦点を当て、その言葉の意味と、文化的な誤解が生まれる可能性を分析してみる。つまり通訳者の仕事は、両当事者がそれぞれ発した言葉の背後にある意味を探るのを手助けすることである。そうするためには、通訳者は話者の言葉の背後にある意味を**置き換える**のではなく、正確に**反映させる**ことに傾注するのである。

例1

追加Q.

- 通訳者は意味を置き換えてはならない。通訳者の仕事は意味を突き止める手助けをすることである。自分なら、その役割を果たすために何をするだろうか。
- 文化的に不適切な言葉を使う、というリスクの可能性について面接官に注意を喚起するために何かすべきことはあるか。
- このような状況で守秘義務はどの程度まで重要であるか。

3. 通訳手順の詳細はどんなものか

- 言語プロフィールに基づいて仕事を受けること
- 時間厳守、マナー、敬意、および自尊心
- 面接の準備段階（参加当事者の紹介と最初の発言）
- 本番面接（べし・べからず集）
- 面接の終了（報告聴取、用語集、通訳者の記録、休憩）

4. 言語プロフィールの適性とは何か

通訳を依頼するUNHCR職員は、その通訳者の話すことのできる言語、流暢さ、方言の知識、特定の専門用語（法律、医療など）に対応できる能力についての情報を持っているだろう。とはいえ、自身の適性を確認するのは通訳者の義務であり、必要に応じて、言語プロフィールの中に仕事を効果的に行うのを妨げる要素がある場合は、それについて話し合うのも通訳者の義務である。

留意点

面接の対象となる難民に関して概要説明を受ける機会が通訳者に与えられる場合がある。そうした概要説明に（必ずしも）難民の申立てに関する情報は含まれるべきではないが、概要説明から、申請者が男性か女性か、複数か、1人の子どもか複数の子どもかどうかは通訳者に伝えなければならない。仕事の目的と内容について概要説明を受ければ、より効率的に通訳できる可能性が高まる。

Q.

- なぜ、通訳者は面接対象者の申立てに関して（必ずしも）概要説明を受けるべきでないか。
- 面接の目的を理解していれば、通訳者はよい仕事ができる可能性が高いのはなぜか。
- 面接対象者の話す言語を事前に知ることは、常に可能だと思うか。
- 自分が担当の仕事に適した通訳者でないと判明した場合、何ができるか。

5. よいマナーや敬意とはどういう意味か

通訳を行うことに同意したら、必ず時間通りに決められた場所に行くようにしよう。時間厳守はプロとしての基本である。それはプロとしての態度の証しであり、関係当事者との信頼関係を築くのに役立つ。

Q.

●この状況に面接対象者はなぜネガティブな感情を抱いているのか。

留意点

面接全体を通じて、通訳者は話をよく聞き集中するべきである。携帯電話は、サイレントモードに設定し使用しないこと。また、あくびをしたり、無関心な表情や退屈した表情をしたりしないようにしよう。自分自身の身振り手振りに注意を払おう。家でくつろいでいるかのようなだらけた姿勢ではなく、背筋を伸ばして座るのがプロとしての態度である。

6. 自己紹介したほうがいいか

状況によっては、通訳者は最初の発言の中で自己紹介し、自分が誰であり、何をして何をしないかについて説明する機会を（面接官の指示により）与えられる。

留意点

UNHCRの職員が面接の進行の責任を負い、面接の種類によって必要な手続きに従い、進行する。ここでの通訳者の発言は法的な側面に触れるものであり、通訳者が活動するのに必要な境界線を定めるものでなくてはならない。その発言は、面接官および面接対象者の言語の両方でなされる必要がある。通訳者は（面接官と相談の上）、以下の項目を最初の発言に含めるべきである。

●各当事者が話した言葉をすべて正確に通訳することに努めるということ。
●両当事者の一方の話がわからないため通訳ができない時は、再度その当事者に話をするように求めるということ。
●通訳者は、いずれの当事者によってなされた発言に対しても意見を述べることは許されないということ。
●通訳者は情報を提供したり、いずれかの当事者に代わって文化的、政治的、宗教的、社会的、人類学的な問題について説明したり情報を提供することは許されていないということ。
●通訳者の仕事は必要に応じて、単語、表現、文、特に文化に関連した単語の意味を詳細に伝えることであること。
●両当事者が通訳者に対して話すのではなく、通訳者を介して話し合うよう、通訳者は両当事者に働きかけるということ。

●両当事者が重要であるとみなす質問は、通訳者に対してではなく、相手方当事者に直接話すよう、通訳者は両当事者に働きかけるということ。
●通訳者に対して話しかけるのであれば、事前に、両当事者が互いに知らせるべきであること。
●面接全体を通して、通訳者は話者と同じ代名詞を使用すること。通訳者は自分については三人称で話すこと（「通訳者は休憩が必要です」など）。
●いずれかの当事者が通訳者の言葉を理解するのに困っている時や、その当事者に関する通訳に不安を感じている時は、できるだけ早い時点でそのことを伝えるべきであること。

Q.

●**隠喩**とは何か。**婉曲表現**とは何か。
●**感情が含まれた言葉**の例として何が挙げられるか。

7. 通訳中に障壁に直面する可能性はあるか

通訳するうえでの最も一般的な障壁は、以下の通りである。
●**代名詞の逆転**
●話者の言葉を誤解し、話者が話し終わった後にそれに気付く。
●話者が話した言葉が理解できない。
●話者の言葉自体はわかったが、その意味がわからない。
●面接対象者と面接官が互いに話し合うのではなく、通訳者に話しかけている。
●話者が表現した言葉が、文化的に不適切であるか、侮蔑的な言葉遣いである。
●話者が自身の文化に固有な概念を表現している。
●話者の言葉が粗野で、単純で、文法的にも間違っているように思われる。
●話者が、少なくとも話者にとっては細心の注意が必要であるような、感情に満ちた概念を説明するのに、隠喩や婉曲表現を使用している。
●話者の言葉が一貫性のないのように聞こえる。
●話者が話をしようとして話が止まらなくなり、突然泣き出す。

8.「代名詞の逆転」とは何か

通常、面接対象者が **I went home**（私は家に帰った）と言えば、通訳者も **I went home**（私は家に帰った）と訳す。心理的にこの規則を守ることは非常に難しい場合もあり、話者が **I**（私は）と言った時に **she/he**（彼女・彼は）に切り替えて、通訳者が代名詞を逆転させてしまうことがる。

例：

Q.

●通訳者が話者と同じ代名詞を使用することを「嫌がる」場合、主な理由は何か。
●無意識に代名詞を逆転させて、後でそのことに気付いた場合、自分ならどうするか。

9. ミスを犯したことに気付いた時は何をすべきか

通訳者が話者の話を誤解し、後でそれに気付いた場合は、記録として残すため、両当事者にそのことを知らせる機会が生じたら直ちに、両方の言語で伝える必要がある。

Q.

●いつの時点で犯したミスについて両当事者に知らせるべきか。

10. 話者を理解できない時は何をすべきか

話者を理解できない時は、通訳を続けてはならない。両当事者にそのことを伝える必要がある。

留意点

通訳者が推測をすると、すべての事実を知らずに申立てに関して判断したり意見を持ったりすることになってしまう。

Q.

- 何語で、「The interpreter doesn't understand（通訳者は理解できません）」と言うのか。
- 自分のことを話す時に三人称を使うべき理由は何か。
- 時に通訳中に推測してみたくなるのはなぜか。
- 推測することは倫理に反する以外に非常に高いリスクが伴うのはなぜか。

11. 話者の話す意味がわからない場合、どうすべきか

通訳を続けることができると思ったとしても、通訳を中断し、（両方の言語で）「The interpreter does not know the meaning of word X and Y（通訳者は単語XとYの意味を知りません）」と言うべきである。面接官は面接対象者にその意味を説明するよう依頼し、通訳者はそれを通訳する。

12. 面接官と面接対象者がお互いに向かって話をしない

このようなことはよくあることだが、困った状況である。面接官または面接対象者が通訳者に直接話していると、とり残されたほうは自分が疎外されていると感じるからである。

例：

Q.

- このような状況の場合、自分だとしたら何をするか。

13. 面接対象者と面接官が侮辱し合う

面接対象者と面接官の話に文化的に不適切な、または侮蔑的な言葉が含まれている場合、通訳が難しくなる場合がある。通訳者は一方で、話者が言ったことすべてを通訳すると約束している。他方、ある言語では完全に適切であると思われる言葉が、別の言語では無礼であると思われ

る場合があることも知っている。

Q.

●無礼になり得る言葉を美辞麗句に変えるかどうかは、通訳者次第だろうか。

感情を抑え、パニックにならず、言葉よりも意味を訳すことに集中し、以下の場合には、話者と言葉を交わすための許可を求めるべきである。

●皮肉や当てこすりがその結果、失礼にあたる恐れがある場合
●怒り、失望、悲しみなどがその結果、失礼にあたる恐れがある場合
●性的な問題など、細心の注意が必要な、または感情に満ちた問題について話す場合、よろしくない語彙の選択の結果、失礼にあたる恐れがある場合
●単なる意見の相違を表すことが失礼にあたる恐れがある場合
●話者が何らかの形で不安、精神的な障害、精神的外傷を患っている恐れがある場合で、失礼にあたる恐れがある場合
●単に話者の自己表現の仕方が失礼にあたる場合

例：

Q.

●上記の例における通訳者の訳し方について、どう思うか。
●一語一句直訳するやりかたが望ましかったと思うか。
●訳すのが難しい二重の意味を含む皮肉、当てこすり、怒りの言葉の例をいくつか挙げられるか。

留意点

通訳者の仕事の1つは、関係者がコミュニケーションを行う際に互いの誤解を防ぐことである。その解決方法としては、話者の言葉の背後に、怒り、皮肉または語彙選択の貧弱さがある場合があることを指摘することが考えられる。同時に、一語一句そのまま訳す前に、まず話者が本当に侮蔑的な言葉の使用を意図しているのかを（面接官と相談して）再確認するのも良いと考えられる。

14. 文化の橋渡し役としての通訳者の役割がいまだに不明確である

話者がbrother（兄弟）と言う単語を使用し、文構造に従って、ある段階の意味をその単語に割り当てたと仮定する（ただし、それ以上の詳細はまだ示していない）。通訳者は、誤解が生まれるのを許さず、説明に時間を取る必要がある。兄弟や家族などの単純な単語は、文化ごとに非常に異なった概念を持つ**場合がある**。以下の2種類の通訳行為は、プロとしての境界線がこの状況ではどこにあるかを示す例である。

例 1

例 2

Q.

- どちらの訳が正しいか。
- 1つ目の例で示された種類の情報は、通訳者ではなく面接対象者から出されるべきであるという考えに賛成か。

留意点

人類学者、社会学者または歴史家の役割を担う必要はない。通訳者は、単語の文化的価値の説明と、文化的、政治的または宗教的な問題に関する情報または説明の提供との間に線引きをしなければならない。

Q.

●この指針の例外を何か知っているか。

15.「乏しい語学力」を磨くことはできるか

語学力を磨きたくなるのは理解できる。しかし、最終的な目的は正確さであり、正確さは話者の言葉と意味のみに基づかなければならない。

Q.

●話者の言葉を脚色または洗練させたくなってしまうのはなぜか。

16. 話者は「婉曲表現」や「比喩」を使用しているようである

そのような単語や表現は、対象言語に一致する指示対象がない場合がある。そのような単語や表現を、自分がそう意味すると思うものに訳すことは避けるべきである。

例：

Q.

●面接対象者が言いたかったことは何だと思うか。

●通訳者の態度は正しかったのか。他に通訳者ができたことはあるか。

留意点

隠喩と**婉曲表現**は理解するのが難しく、気付かない可能性のある意味が数多くある。こういった表現は、会話の主題が、少なくとも話者にとって特に細心の注意が必要である時に使用されることが多い。

17. 話者の話が意味をなしていないように聞こえる

面接の冒頭でこのようなことが起こる場合、話者に数分間話を続けさせるかを（面接官と相談のうえ）検討し、その後にどうすべきか（面接官と相談のうえ）決定する。面接の途中でこのよ

うなことが起きた場合は、話者に中断が必要か、特定の事柄について話すことができないことを示していると考えられる。その時は、話者の話に一貫性がないため、通訳できないと言えばいい。

留意点

こうした矛盾は、疲労や強い感情や、あるいは貧弱な言語能力、精神錯乱または精神的な障害から起こる可能性がある。支離滅裂な言葉は訳すことができないため、ためらうことなくそれを指摘する必要がある。支離滅裂な言葉を理解しようとしたり、説明を行おうとすることは一切してはならない。この場合、神経言語学者や心理学者としてではなく、通訳者としてその能力内で行動する必要がある。

18. 話者が泣きながら話し続ける時、どうすればいいか

経験則からわかるように、話者の話を止めるべきではない。話者が一息ついた時に要約通訳を用いる。このような状況では、メモ取りが役に立つ。

Q.

- ここまで学んでくると、通訳について十分な知識を有しており、こうした状況に対して個人的な戦略を考え出すことができるだろう。では、どのような戦略があるか。
- 通訳者は事前に指導責任者と戦略について話し合う必要があると思うか。

19. 面接の終了時に何をすべきか

この段階は、面接の結果に関する特定の情報が与えられる場合があるため、面会の重要な段階である。まだ、気を休めてはならない。疲れていても、集中力を維持して、当事者がまだ聞いていない重要な質問があれば、それを訳す意思があることを示すこと。

この段階で、短い報告会を開くことが望ましい。また、小休憩を取り、記録簿に手短にメモを取ること。

第Ⅱ章　実務面での注意点

本章では、以下の項目について学ぶ。

- 他者と空間を共有し、文化的要因に対応する方法
- 通訳する際に座る位置
- よくある通訳にまつわる状況への対応方法
- 特定の種類の面接を実施する方法
- 子どものための通訳の仕方
- 面接等における通訳の基本

A. 面接対象者と面接官と一緒に座る

1. 文化的要因はどうして重要であるか

難民の文化と背景に細心の注意を払うことは非常に重要である。たとえば、難民女性は、常にそうだとは言えないが、女性の通訳者を介して女性の面接官に話すほうが安心すると一般的に考えられる。事実、多くの難民女性は男性の通訳者や面接官に話したがらないし、逆の場合もそうである。

例1

例2

Q.

- 難民女性に面接をする必要があり、対応できる通訳者は自分しかいないとする。あなたは男性

である。あなたは面接中、その女性は恐らく全体的にこれまでの男性にまつわる経験から、自分を信頼していないと感じる。どのように通訳を続けるか。

- 上記の例にある男性の面接対象者は、なぜ通訳者が政治について何も知らないことについて不安を抱いているのか。
- 通訳者などの重要な役割を女性が担うことは許されるべきではない、という意見を聞いたことはあるか。

留意点

通訳者は大きな権力を持っていると見られる場合が多い。こうした認識は理解可能なものである。というのは、申請者は、自分が理解できない言語への通訳に対しては何も手出しできないと感じることがあるからである。

2. 席の配置についてはどうか

座る位置が面接の結果に影響を与える場合がある。通訳者が座る位置に関する厳格な規則はないが、面接官と面接対象者の両者の隣で後ろに少し離れたところに座ることが望ましい。

例：

3. 通訳者はどこに座ってはいけないか

通訳者は絶対に面接対象者と面接官の間に座ってはならない。

例：

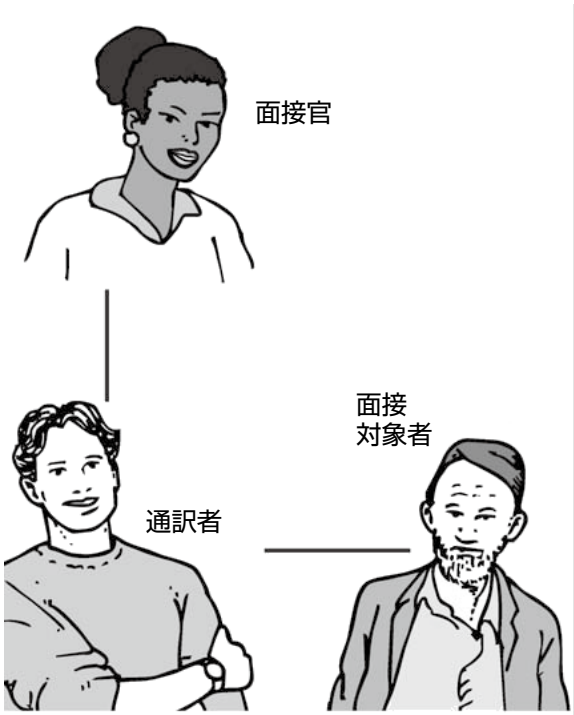
Q.

●面接対象者の背後に座った通訳者を交えて、面接官と面接対象者が対面する配置で行うやりかたは、よく知られている。この配置を用いれば、通訳者は必然的に中立を保つことができるとよく言われる。これについてどう思うか。

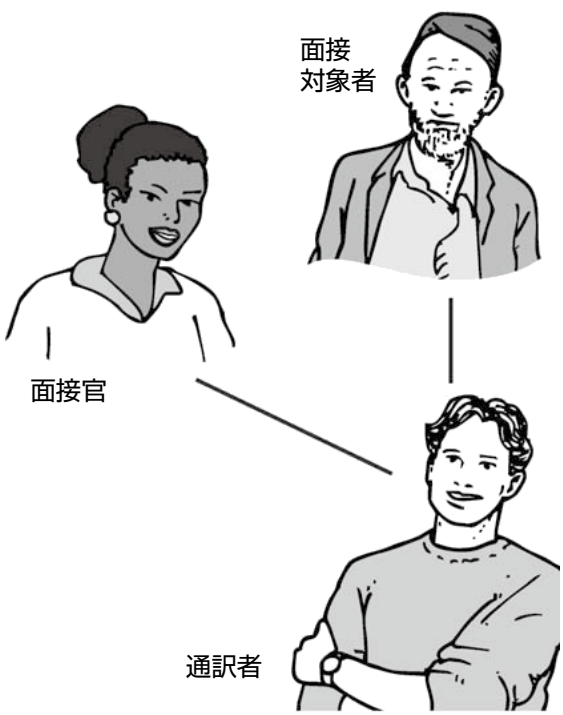
4. 支障が出る座席の配置はあるか

面接が行われる環境によっては、上記のような理想的な椅子の配置ができない場合がよくある。十分なスペースがない場合もあれば、各関係者が何とか座れるような家具の配置になっている場合もある。面接官が面接対象者と通訳者の座る位置を決定する場合もある。一方で、椅子の配置が全く考慮されない場合もある。いずれにしろ、以下の2通りの配置を採用するときは注意する必要がある。

例1



例 2



Q.

●この2通りの配置の良い点と悪い点は何か。

5. 何もかもを訳す必要があるか

通訳者は、面接官、面接対象者のどちらかとのみ会話するのを避けるべきである。**ただし、状況によってそうせざるを得ない場合で、両当事者ときちんと合意がなされている場合は除く。**面接に特に関係のない質問を含め、いかなる種類の質問も訳すべきである。

例：

6. 当事者の一方が通訳者とのみ会話しようとする場合はどうすべきか

こうした場合は、通訳者は常に、誰に対しても疎外または無視されていると感じさせないように努めるべきである。このような問題が起こった時は、（訳注：面接官との相談のうえ）そのような会話の内容を要約するべきである。

7. 話者にどのくらいの時間話させておくべきか

通訳者が困らない程度に、話者に区切ってもらう標準的な時間の長さを設定することが重要である。ただし、この長さは主題の複雑さ、話者の話の明瞭性、通訳者の経験によって変わってくる。訳すべき文が長くなりすぎる前に話者の話を止める（訳注：面接官との相談のうえ）のは、通訳者次第であるが、言葉のつながり、および記憶力の限界にも気を配る必要がある。

例：

Q.

●話者に話を途中で切るように頼みたいということを知らせるために、自分だとしたら何をするか。
●通訳者が面接官に対して言おうとしている文を完成させることができるか。
●どの程度の時間、メモを取りながら他人の話を聞くことができると思うか。

留意点

理想的な状況では、話者の発言よりも通訳のほうが時間的に少し短くなると一般的に考えられている。これは非常に似通った言語（フランス語とスペイン語など）の双方向的な逐次通訳にはあてはまるが、元の言語と対象言語が構造上でも意味の表現のうえでもかなり違いがある場合には、あてはまらない可能性もある。加えて、言い換えを用いると、話者の言葉に通訳者の言葉を追加しているかのように、間違いなく冗長に聞こえるであろう。

8. どのような口調を用いるべきか

通訳者は完全に中立的であり、話された言葉だけをできるだけ正確に訳すよう努めなければならないと信じるプロ通訳者もいれば、話者の感情を伝えるために、話のなかに**感情を加える**ことが必要と信じるプロ通訳者もいる。

話者の模倣をするというわけではないが、無味乾燥な単調な口調を用いるのはあまり良い方法ではない。反対に、通訳している2つの言語間の違いに関連する文化的な意味合いに気をつけ、それに応じて調節を図る必要がある。

質問と供述、疑問と皮肉を込めた発言の口調の違いは常に気を付ける必要がある。

B. 特定の種類の面接

1. 面接がどうなるかを予測できるか

本テキストで個別の通訳案件で発生するすべての筋書き、障害、または話者の個性を予測、説明することは不可能であるが、参加したそれぞれの通訳活動の中で気付いたり経験したりした事柄に従って、イメージすることはできる。常に「My Interpreter's Log（通訳者の記録簿）」といったノートにメモを取り、記録しておくことを薦める。

2. 通訳者が参加することによって、どのような違いが生まれるのか

正確に訳すことによって、面接対象者の申立てに対する適切かつ正確な判断を確保することができる。面接官と面接対象者が互いにコミュニケーションを図ることができれば、面接対象者は以下についての理解を深めることができる。

- 面接官・医師・カウンセラーの役割
- 面接対象者が利用できるサービスの種類
- 面接中に扱われた問題・病気・スクリーニングの内容
- 面接官が2回目の面接の設定や医師やカウンセラーへの紹介等、今後の流れについて決定した理由やその影響について
- 面接官の主な目的の1つは面接対象者のニーズ、感情、自身の申立てについての意見を理解することであるという事実

3. 通訳者は面接中に信頼関係を築く役割を果たすことはできるか

通訳者がいることで申請者を安心させることができるのは確かである。特に、面接対象者が拷問を経験したことがある場合や、周りの人たちが政府職員ではないかと恐れているため通訳者を信頼してくれない場合は問題が生じることがある。通訳者は振舞い方、話し方を分析し、さらにあらゆる方法で、面接対象者を威圧するような、通訳者が作り出す恐れのある障壁を認識するよう努めること。面接対象者の信頼を得られた場合は、通訳者は面接全体を通じてさらに信頼関係を深めることができる。

留意点

面接対象者は、面接の前後や面接中に通訳者の同席に疑念を表明する権利を持っている。面接対象者が別の通訳者に変更するよう求めることもある。通訳者はこうした要求を個人的なものとして受け取るべきではない。宗教的志向や政治的志向、性や民族の所属により、面接対象者が通訳者である自分を快く思っていないため、同席してほしくないのだと理解すべきである。

> 通訳者と面接対象者が言語の違いから理解し合えない場合は、通訳を続けても意味がない。こうした場合は、直ちに面接官に知らせる。

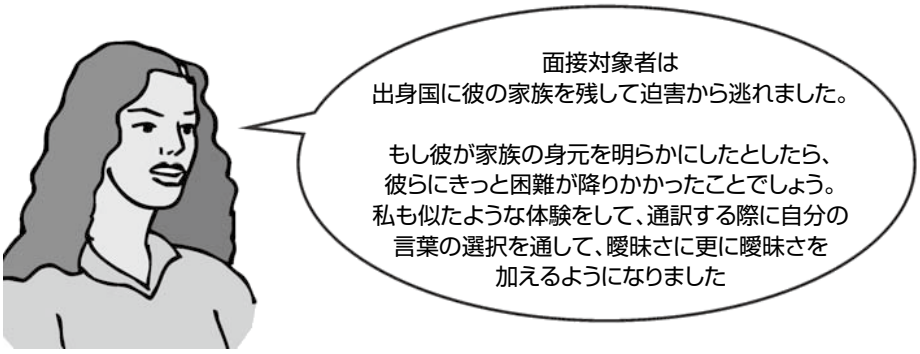
4. 難民認定面接には、特有の課題があるか

難民認定と第三国定住関連の面接の両方で、同じ申請者の通訳を行うことは望ましくない。通訳者は、できる限り自らの独立性を維持できなければならない。

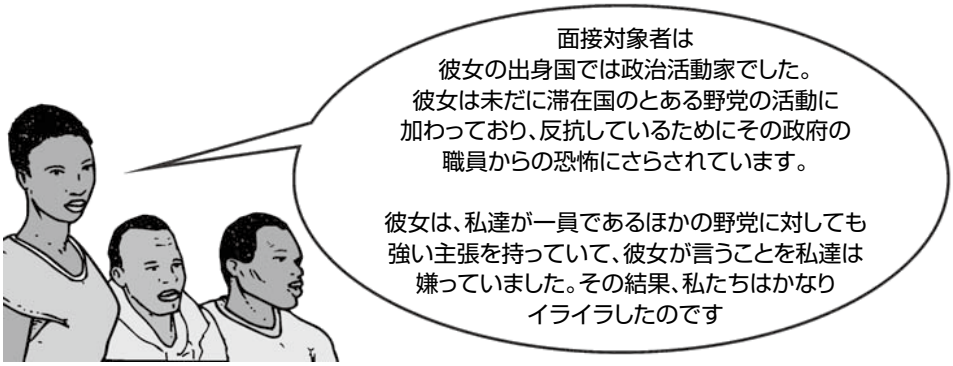
難民認定の面接では、常に大変な集中力が必要となる。面接では、通訳者は感情をかきたてる主題への対応に気を付けることが求められる。通訳者の対応が通訳の質に影響を及ぼす場合がある。以下の例では、面接対象者により通訳中の通訳者がぎこちない思いをしたケースについて、通訳者の証言が示されている。

第Ⅳ部

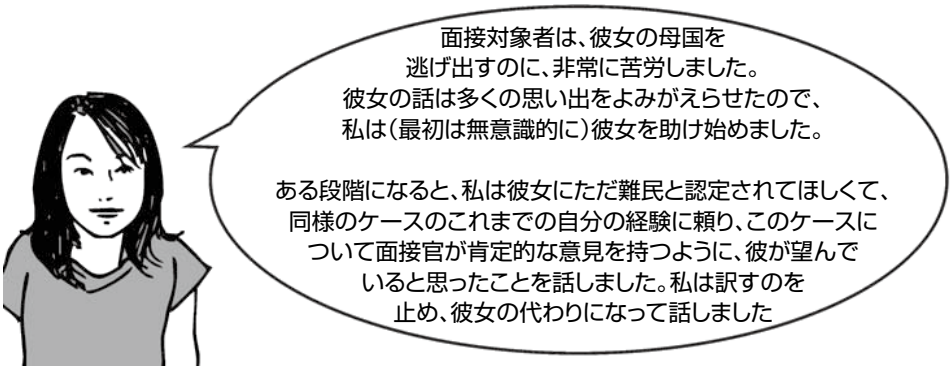
ケースⅠ



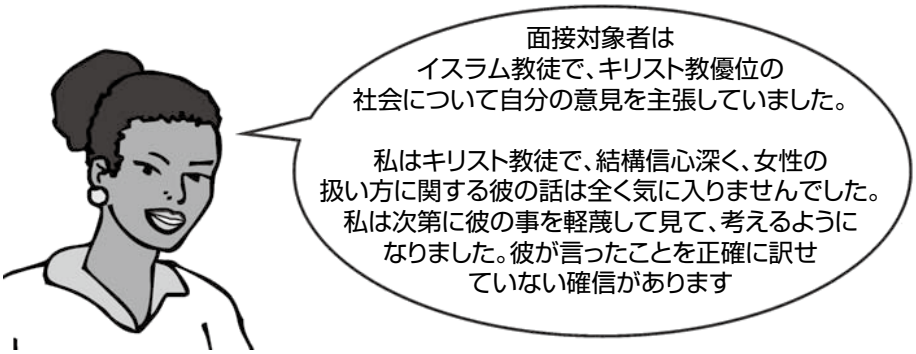
ケースⅡ



ケースⅢ



ケースⅣ



これは、通訳者の行動を研究するなかでしばしば観察される状況を、不完全なものではあるが、一覧にまとめたものである。例を見て、通訳者自身の経験に照らして検討し、それに基づいて一覧を補ったり修正したりし、それらの例を利用して、通訳している状況でも冷静さを保つような人物を念頭におきながら自分自身を分析することを薦める。

Q.

- 面接中に聞いた内容に対して中立・公正を保つことが難しい場合がある。難民認定関連の面接では、完全に中立を保つことが求められる。それができると思うか。

また、難民認定関連の面接では、通訳者は以下のことを意識することが求められる。

- 難民を保護するUNHCRの任務
- 政府やUNHCR事務所で実施される難民認定手続き
- 使用される頻度の高い難民認定関連の用語
- 秘密保持と公平性に関する義務

留意点

- このような認識が足りないと感じた場合は、指導責任者に伝えること。
- 公平性と秘密保持の観点からは以下のことが求められる。
- 通訳者は面接対象者の供述の信用性を評価したり、申請者によって示された証拠を調査したりしてはならない。
- 通訳者は、面接対象者をサポートし、その味方や代理人として話をしてはならない。
- 通訳者は、申請者の相談に乗ったり、申立て内容に関して助言したりしてはならない。

留意点

難民認定関連の通訳者としての自分の役割に不安がある場合は、通訳をする前に常に「自己学習用テキスト」と「行動規範」を一読しておく。疑問を感じた場合は必ず、難民認定関連の通訳に従事する前に、できるだけ早い機会をとらえて指導責任者に話すこと。

5. 医師の通訳を依頼された場合はどうするべきか

通訳者が感情的な問題の扱い方を知っていれば、難民認定の申立てに関連する、あるいは拷問の犠牲者関連の審査中など通訳を必要とする状況にある場合に、難民と話をする必要のある医師、カウンセラー、およびその他のUNHCR職員の通訳を行うこと**も**対応可能である。

留意点

上記の医師による面談は法的手続きの関連において実施されはしても、厳密に言えば本質的には法的ではなく、むしろ面接対象者の現在の心身の健康に直接関連している。そのため、通訳者はそれぞれのクライアントに合わせてアプローチを調整するよう求められることもあろう。その際には、「**基本的な通訳手順**」で述べられている内容を忘れず、逐次通訳を行うことを心がけよう。

医療関連の面接中や、天災・難民キャンプ・紛争地帯・避難民の大移動が起こり得る国境地帯などにおける緊急事態おいては、通訳者の共感を伴った行動が特に重要である。たとえば、面接対象者の特別なニーズに対応できる環境で面接が開かれるようにする必要がある。こうした状況では、常に面接官と協力して事前に計画を立てるべきである。

6. 精神科医やカウンセラーの通訳はどうすべきか

多くのコミュニティでは、精神的な障がいについて語ることはタブーであり、精神に障害を持つ人はコミュニティによって不名誉なこととして汚名を着せられることもある。面接対象者の出身のコミュニティがこういった地域・国である場合は、精神科医との相談に通訳者がたちあうことに抵抗感を示すこともある。面接対象者は家族に通訳を頼みたがるかもしれない。カウンセラー等のための通訳に特化した訓練を受け、経験もあれば、通常面接対象者の信頼を得られるはずである。しかし通訳者が面接対象者のコミュニティに属し、面接官が面接対象者に対して、通訳者がプロとしての仕事ができるとその人に納得させることができない場合は、通訳者の役目を解かれる場合がある。

原則としてカウンセラーは、緊急事態の場合を除き、性・ジェンダーを理由とする暴力に関連した面談には面接対象者のコミュニティ出身の通訳者を使わないことが望ましい。また面接対象者の年齢、性、宗教および文化等を配慮しつつ通訳者を雇うべきである。

留意点

通訳者によっては、医療・カウンセリング活動において面接官に代わって診断を行ってしまう傾向がある。これは、通訳者自身が役に立ちたいと思っていたり、患者の医療歴を知っていたり、患者の言葉（あるいは通訳者の言葉）をカウンセラーや医師が理解していないと感じたり、通訳者の役割について勘違いしていたりすることから生まれる結果である。自分は通訳者であり文化・言語の橋渡し役であると考えるようにし、自分の職業の境界線を踏み越えないように注意すること。

Q.

- 上記の通訳者はきちんと仕事をしているか。それとも、境界線を踏み越えてしまったか。
- 医師は、通訳者が加えた情報を役に立つと感じたと思うか。
- あなたの経験から、自分自身の経験を面接対象者の言葉に投影し、それに従って訳してしまうことはあるか。

7. どのような専門用語を学ぶべきか

難民認定関連および医療関連の専門用語について、自分の通訳言語で精通すべきである。そのためには、用語集に新たな項目を設け、それを以下の小区分に分けるといい。

難民認定関連の専門用語

- UNHCR事務所で使用される法律用語
- 政治組織、軍隊組織、民兵組織、宗教組織の名称
- 国、地域、地区、町の名称
- 政治指導者、宗教指導者、軍事指導者、民兵指導者の名前
- 文化的問題、習慣、慣習に関連する用語
- 時間（カレンダーなど）、空間（距離）、環境（特定の建物、植物、動物などの名称）に関連する概念
- 出来事、行事、儀式（政治・宗教関連）の名称
- あらゆる種類のタブーに関連した概念（特にジェンダーに関連するもの）

医療関連の専門用語

- 人体の各部
- 最重要器官のいくつかの名称
- 一般的な病気やあまり一般的でない病気の名称（これに関しては調査が必要。自分が携わる分野の医師に協力を求めること）
- 伝統療法を含む、薬の名称
- 拷問方法の名称とその説明
- 症状、病状、病気などを説明する際に、どの言語（および方言）でも一般的に使用される慣用句、隠喩表現、婉曲表現の一覧。時に面接官は、非常に個人的・屈辱的または**タブー**とさえみなされるような問題について話す必要がある。

C. 子どものための通訳

1. 適切な計画を立てずに子どもを面接していいのか

すべきではない。子どもの福祉は最も重要であり、内乱によって引き裂かれた国からの脱出などの体験によって、難民の子どもには精神・社会的な発達障害がある可能性がある。面接の標準手続きを闇雲に適用し、子どもにさらなる精神的外傷を与えるようなリスクを取ってはならない。心理学の専門家が、その子どもの発達を、トラウマにより起こり得る影響だけでなく、その子と同年齢の標準値と比較して診察し、その結果を面接前に面接官に伝えるべきである。

2. なぜ子どもへの対応には特別な配慮が重要か

子どもや青少年の通訳には、以下の理由から特別な配慮が必要である。

- 子どもは極めて強く、同時に傷つきやすいから。子どもは**家族**以外の人を恐れていることもあるため、子どもへの対応方法を知ることが不可欠である。
- 面接を受ける子どもは、子ども兵や、家族から強制的に引き離された子どもであるかもしれないから。一般的に、成人との関係はこのような体験によって形成されている可能性が高いため、この問題に精通した通訳者が必要とされる場合がある。
- 子どもは時に自分のやりかたで自分自身を表現するため、通訳者と面接官の強い連携や、子どもの体験に対する通訳者の理解力が必要となるから。
- 住み慣れた地を追われたことからコミュニティ内での情動的・社会的・認知的発達が妨げられてきた場合、無意識に自分の母語、さらには自分の文化を拒絶することもあるから。

留意点

他人の体験を理解するとは、その体験についてその人と同じように感じることかもしれない。この姿勢と、苦しんでいる他人に対する同情心とを、特に通訳者自身がそうした苦しみを熟知している場合、比較してみること。

Q.

- 通訳者は子どもに**同情**や**共感**を示すべきか。一般的に面接対象者に対してはどうか。それとも、リスクが伴うため、どちらも示すべきではないか。この2つの単語を辞書で調べなさい。
- 面接対象者が子どもの場合、通訳がうまくいくようにするためにどのような戦略を考えるべきか。

3. 従うべき標準的な手順はあるか

残念ながら、標準的な手順はない。通訳者ができることは、**心理学の専門家の協力を得て面接前の段階において面接の計画を立てる際、**子どもの話が断片的であっても矛盾していても、邪魔をせずに子どもに話したいだけ話をさせておくという方法について指導責任者と合意しておくことである。逐次通訳よりもメモ取りと要約に重点を置くこと。

> 通訳方法は、成人との難民認定関連の面接において通訳をする場合よりも、はるかに柔軟にする必要がある。子どもに面接ではなく会話に参加しているという印象を与えよう。また、面接官と協力して、面接を、子どもと親密な関係を築く機会として利用すること。

4. 子どもには特別な話し方をするべきか

通訳する際には、できるだけ単純な言葉を使う必要がある。また、同じことを数回繰り返す必要も考えられる。言ったことを繰り返させるのは間違ったことではないと子どもに示すため、そ

の際は笑顔を見せなければならない。また、面接官の発言・質問・促しを小さい単位に系統化し、身振りや絵などの補助を通じて理解しやすくする。

通訳者が子どもと会話をすることになるため、面接官は、通常の成人に向けた難民認定関連の面接を実施する場合より長く（申請者からの）「距離を取る」必要があるかもしれない。その場合は子どもに、「今話したことを面接官に話してもいいかな」と尋ね、面接官に子どもとの会話を訳す間は、子どもに何かさせておくようにすること。

> 面接官と通訳者は、子どもから証拠を集めるための面接と方法に関する指針に精通しておくべきである。

D. 会議における通訳業務

1. 会議通訳とは何か

それぞれのグループが異なる言語を使う（グループ）会議で、2つのグループの通訳を依頼された場合、逐次通訳ができるように、各グループの話者が2文ごとに話を止めてくれるかどうか確かめるべきである。これが可能なのであれば、部屋の隅に行き、マイクで話すといい。

会議参加者が討論しており、通訳者のために2文ごとに話を止めることができない場合は、通訳者は**ほぼ同時ウィスパリング通訳**と**要約通訳**の組み合わせが適用できる。以下の手順に従うこと。

- 話者にできるだけゆっくりと話すよう依頼する。
- 自分が通訳するすべての人たちにテーブルの周りに集まってもらい、通訳者本人はテーブルの背後に位置する。これにより、テーブルを囲んで座った人たちは通訳者ではなく話者を見る形になる。
- 話者が最初の文を話し終えた後に訳を開始する。
- 小さい声でささやくような話し方をする。
- 話者の最初の文を訳しながら2番目の文を聞き、記憶し、その文が終わったら訳せるよう備える。この方法で通訳し続けよう。
- 討論が白熱し、話者が約束どおりゆっくりと話さなくなってしまった場合、通訳者は要約通訳を用いる。

自己学習用問題

1. 通訳者は文化的に不適切な言葉を通訳しなくてもよい。

正　□　　誤　□

2. 通訳を依頼された場合、その仕事が務まるかどうかを確める必要はない。

正　□　　誤　□

3. 批判的態度

聞いている内容が何であれ、判断を保留し、感情を抑制し、話者の意味を穏やかに聞き取り、理解し、分析し、訳すという過程に集中することができるだろうか。2人の同僚に練習に加わってもらい、内1人が通訳者の役を務めてみること。まず以下の文章を使い、それが終わったら別の文章を複数見つけて、これまでに学んできた通訳のすべての要素（言語問題、記憶とメモ取り、椅子の配置、通訳手順など）について練習し、話し合ってみよう。

（難民・患者）私は難民キャンプのNGOに雇われており、食糧配給の手伝いをしていました。仕事は食料庫の管理と、難民への食糧配給でした。NGOは食糧配給を管理していなかったため、私は定期的に倉庫から食料袋を取り出すことができました。私は一部を家族や友人に分け与えていました。残った食料は、キャンプの少女や女性に分け与える代わりに性的関係を要求しました。最後に性的関係を持ってから、咽喉に違和感があります。痛いというよりも微熱があるような感じです。これは感染症の症状でしょうか。私はとても心配で、自分がしたことに対してとても残念に感じます。自分の将来を台無しにしてしまったのかもしれませんよね？私が直面している問題を教えてください。無防備な性的関係についてのリスクに関する話はたくさんありますし。この症状からすると、HIVに感染してしまったのではと思います。

（医師）残念ですが、本当のことを言えば、関係を持った難民の女性や少女がHIVに感染していれば、あなたもリスクにさらされています。あなたが説明した状況のみから女性がHIV感染者かどうかを判断することは不可能です。リスクの大きさを数値で表すのは難しいですが、たとえその女性がHIV感染者であったとしても、あなたが100%感染するとは限りません。ある程度明らかにする方法は、ウイルス量を調べる検査（標準的なHIV検査ではなく、いわゆるポリメラーゼ連鎖反応（PCR）ウイルス量検査）を受けに行くことです。これはかなり高額な検査ですが、感染していた場合には感染から2週間後には陽性反応が出ます。HIVに感染した可能性のある時期からあまり時間が経っていなければ、抗レトロウイルス療法を受けて感染リスクを軽減することもできます。そうは言ったものの、たとえ感染していても、必ずしも将来を台無しにしてしまったということにはなりません。多くのHIV感染者は、実りある幸せな生活を送っています。

4. 障壁への対処

この練習では、面接官および/または面接対象者により、通訳者の活動の障壁となる行為をできるだけ多く示され（第Ⅳ部を参照）、通訳者はその対処をするよう試される（通訳者は事前に知らされない）。通訳者は対処できることとできないことについてメモを取り、本テキストの関連する個所を修正する。以下の文章や、他に自分で見つけた類似の文章を使用すること。

ベティーの直面してきた問題が始まったのは1993年1月である。彼女の義理の姉（妹）が2人目の子どもを妊娠し6カ月目に入っていた。政府はこの「犯罪」を発見し、兄弟と義理の姉妹が通常住んでいたベティーの家にやってきた。しかし、彼らは政府の探索を逃れ、役人は代わりにベティーを逮捕した。ベティーは義理の姉（妹）が自首するまでの2週間、人質となった。役人は義理の姉（妹）に手錠を掛けて病院に連行し、強制的に彼女を病院の中絶室に運び込んだ。その部屋はこうした状況に備えて特別に作られたもので、胎児が中絶される様子を強制的に女性に見せるためにわざと置いた鏡もあった。しかし、義理の姉（妹）の痛みがあまりにもひどかったため、医師は最終的には麻酔薬を投与し、手術の残り時間、彼女を眠らせた。

この体験によってベティーの家族は精神的に打ちのめされただけでなく、政府の一人っ子政策に従わなかった罪で巨額の罰金を科された。この体験はベティーに拭い去れない記憶を残した。それからわずか数カ月後に、ベティーにも同じ迫害が待ち受けているとは、彼女自身知りもしなかった。ベティーはこうした苦しい期間、慰めをボーイフレンドに求めた。傷つきやすい状態にあった彼女は、ボーイフレンドの誘いに負け、さらに大きな心的外傷に苦しむことになった。

1993年3月、ベティーは気分が悪くなり、診察を受けた。医師は「妊娠です」と告げた。ベティーは落胆した。未婚での妊娠という恥を忍ばなければならないうえ、自分が結婚・出産の最低年齢に達していないことも知っていたからである。義理の姉（妹）の子どもと同様、彼女の子どもも「非合法」とみなされていた。それでも、彼女は医師が勧める中絶を拒否した。それに対し、医師は彼女の件を政府に報告した。5月、ベティーは逮捕され、病院に連行され、胎児を殺す薬を投与すると告げられた。2人の医師が彼女を押さえつけ、薬を1錠強引に飲ませた。次に2人の医師は、中絶処理を完了するために注射を持って戻ってくると言った。ベティーは、赤ちゃんを助けたいという気持ちを捨てられず、ボーイフレンドの友人であった看護士に、逃げるのを手伝ってほしいと頼んだ。看護士が窓の鍵を外し、ベティーは窓から飛び出した。

5. 通訳の前に、面接対象者の申立てに関して概要説明を受けるべきか。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

6. 面接官が通訳者を紹介したほうがよいと思うか。通訳者が自己紹介をするのは時間の無駄ではないか。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

7. 何かわからないことがあった場合、ただ話者に言った言葉をもう一度話すように頼めばいい。

正　□　　誤　□

8. 通訳者がミスをした場合、面接が終わった時に面接官に伝えればいい。

正　□　　誤　□

9. 面接対象者が侮蔑的な言葉を使った場合は、一語一句そのまま訳をする。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

10. 面接官の言った言葉を単純化しないと面接対象者には意味がわからないだろうと思った時は、単純化するのがよい。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と意見交換をすること。

11. 特に何の問題もなく、自分は子どものための通訳をすることができる。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と意見交換すること。

12. 医師が患者の病気を正確に診断するためには、通訳者が必要である。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

第Ⅴ部
自己管理の基礎

難民関連の面接での通訳は極めて厳しい仕事であるといえる。通訳者が代理性心的外傷に苦しみ、その結果、燃え尽き症候群にかかってしまう場合もある。理想的には、面接過程に関わる者は皆こうしたリスクを自覚し、心的外傷や燃え尽き症候群の原因と症状を理解し、どのような予防法や治療法があるのかを知っておくべきである。

第Ⅰ章　セルフケアをしよう

本章では、以下の項目について学ぶ。

- フラッシュバックとは何か
- 通訳業務により生じるストレスの解消方法
- カウンセラーに相談すべき時期
- 心的外傷後ストレス障害（PTSD）と代理性心的外傷
- 通訳をしているときに気分が悪くなった場合は、どうすべきか

A. フラッシュバック

1. フラッシュバックとは何か

フラッシュバックとは、過去の出来事に関連して突然、心の中に映像として現れる記憶のことである。

通訳者として日々耳にする話は出身国で通訳者自身が経験した**心的外傷**の記憶を呼び戻すため、通訳者は時に、とても通訳を続けることができないと思うことがある。

留意点

心的外傷は、次のように定義される。(1) 実際の死・死の脅威、または重傷、自身または他者の身体的安全への脅威に関わる出来事を経験、目撃、またはそれに対峙した人であり、その人の反応が (2) 強烈な恐怖、絶望または戦慄を伴ったものであったとき。(AM, Psychiatric Association, Diagnostic Criteria from Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, PTSD 428 – Michael B. First ed., 4th ed. 1994)。

そのような感覚を覚えた場合は、少しの間通訳を中断し、以下のいずれかを経験したかどうかを確認する。

- 目が覚めていながら、衝撃的な出来事の記憶または場面が思い浮かぶ
- 過去の心的外傷に関連した悪夢
- 強い感情（話者に対して強い反応を示す場合は、通訳者自身の過去の経験に関連していることがあり、その場合、通訳者のプロとしての仕事の出来を左右するおそれがある）

以下の例を見てみよう。

通訳者は通訳対象者に対して過度の同情を寄せることで、気づかないうちに多少の修正を加えてしまい、客観的ではなく主観的な通訳をする場合がある。気分が落ち込んだり、頻繁にいらいらしたり、不安になったり、ストレスを感じたりすることがある。

- **このような気分になった場合は、どのような状況がこのような気持ちを引き起こしたのかを突き止めようとすること。そうした気持ちになるのは仕事の時だけか、それとも家にいる時もか。心配はいらない。というのは、衝撃的な体験に苦しんだ難民の通訳は、難民やその他の人、さらに通訳者自身に対する強い感情を通訳者から引き出すことがあるからである。重要な点は、それらの感情の検証を今ここで始められたということである。**

2. 二次的外傷性ストレス障害とは何か

体験している情緒反応は、**ストレス**として説明することもできる。重圧を感じている時は、周りの状況が悪い影響を及ぼしていると感じる場合がある。特に、相手とする人たちと、その人とともに共有する体験や出来事があまりにつらいと感じると、このような感情を抑えきれなくなる場合がある。通訳者は、面接対象者を助けたいという強い責任感を感じている場合もある。この場合も客観性を失う可能性がある。フラッシュバックが頻繁に起こるため、気分が滅入ったり、落ち込んだり、不安になったりする場合もある。

難民のために働く人の多くはストレスに苦しむ。このような人は、**逆転移**と呼ばれる心理現象の対象となることがある。つまり、他人の経験や気持ちを自分の気持ちに関連付けてしまうのである。全く同じ体験ではなくても、似たようなことを体験していたり、同じような環境で同じ恐怖感や絶望感を味わったりしていることが多い。面接対象者の問題を肩代わりすると、通訳は主観的になり得る。

留意点

転移（**逆転移**の反対語）とは、たとえば、精神科医が携帯電話が鳴り続けていることに対して怒るといった場合に起こることを意味する。精神科医が、この問題の解決策を見つける代わりに自分の怒りを患者に**転移**した場合、患者にも同じ症状が現れ始めることがある。まるで、精神科医が患者に携帯電話が鳴ったら怒らなければならないと**話した**かのような状態である。

ストレスは、少なくとも初期段階では対処可能である。とはいえ、専門家の助言を求めないと、またストレスをなくすような方法を考え出さないと、ストレスが「燃え尽き症候群」に変わることがある。

3. 燃え尽き症候群とは何か

仕事への関心が失せ、面接対象者の言葉を聞きたくなくなり、面接対象者から距離を置き、その存在さえも否定し始めるときがある。これは燃え尽き症候群にかかっているのかもしれない。

面接対象者だけでなく、出会ったすべての難民に対して敵意を示してしまうこともある。難民に憎しみを感じる場合もある。自分自身を難民の一人と重ねあわせ、その難民は他の誰よりも価値があると信じ始めてしまうこともある。あらゆる機会をとらえてその難民に親切にしたくなってしまうこともある。

留意点

常に疲れを感じているか。睡眠にまつわる問題があるか。頭痛がしたり食欲がなかったりするか。周りから攻撃的、悲観的、皮肉的であると言われたことはあるか。過度の飲酒や喫煙はないか。集中力がなかったり、いつも仕事に遅刻したり、仕事に対する意欲が欠けていたりしたために、指導責任者から叱責されることはあるか。答えが「はい」で、ある程度の期間難民のために働いている場合、カウンセラーに連絡を取るよう直ちに指導責任者に依頼すること。治療を受けない場合、症状は**代理性心的外傷**に変わることがある。

4. 代理性心的外傷とは何か

代理性心的外傷に苦しむ人は、友人や家族から孤立し、多くの時間を独りで過ごすことが多い。そうした人は暴力に極端に敏感になり、絶望感に苛まれる可能性がある。他者との交流能力、情動スキルおよび認識がすべて悪影響を受けてしまう。

5. 心的外傷後ストレス障害（PTSD）

PTSDとは、衝撃的な出来事の後に経験する症状である。PTSDに苦しむ人は、衝撃的な体験を思い出してしまうようなことに遭遇すると、その体験を**追体験**してしまう。たとえば、教会の前で暴力を振るわれた人が、教会の近くを歩くと一時的に理性を失ってしまうことがある。また、フラッシュバックや悪夢によって自分の経験を突然思い出すこともある。まずは心の中で、衝撃的な出来事を思い出させる場所を避け、衝撃的な体験に関連したものから感情を切り離すことが最優先事項となる。その結果、悲惨な虐待について感情的な反応を全く起こさずに、そのことについて冷静にみつめ、話し、考えることができる。

6. こういった症状を患っていても通訳を行えるか

もしこれらの症状のいずれかを認識しつつも、難民の通訳が予定されているのであれば、通訳者が通訳中に耳にする言葉と自身との関連付けを分析するうえで手助けをする立場にあるカウンセラーの助言に従い、一時的に面接対象者を同様の体験を味わったことのない別の通訳者に任せるのが賢明である。

カウンセリングは、通訳者がストレスを解消し精神状態を自覚するのに役立つ。人によっては、自覚することで客観的な通訳が可能になるため、非常に重要である。燃え尽き症候群の予防にもつながる。自覚はそれほど重要ではなく、専門家の助けが必要な場合もある。

留意点

UNHCRが関わる多くの難民その他の人々は、故郷のコミュニティからの脱出前に衝撃的な体験を味わっている。通訳者であり難民でもある場合、この点を十分に自覚する必要がある。指導責任者に伝え、カウンセラーと定期的に相談することをすすめる。通訳者は、その仕事が原因で心的外傷を経験する場合もある。症状が治療されないと、通訳対象の難民にさらなる精神的ショックを与える可能性がある。**自分のため、そして難民のためにも、きちんとセルフケアをするべきである。**

自己学習用問題

1. 通訳したことが原因で心的外傷に苦しむはずはない。

正　□　　誤　□

2. 面接対象者に共感し、その人が話した言葉を客観的に訳せなくなることなど決してない。

自分の考えを書き出し、それについて指導責任者と議論すること。

付録Ⅰ

付録Ⅰ　通訳者の行動規範

a) はじめに

i. 通訳者の仕事は、難民がUNHCRの面接や会議で使われる言語を話せなかったり、その言語に堪能でなかったりした場合に、UNHCRがその任務を遂行できるよう、難民がまるで同じ言語を話しているかのようにUNHCR職員とコミュニケーションを図ることができるようにすることである。

ii. 本行動規範は、UNHCR通訳者が職場内外でプロとしての行動を維持するための手引として、また、通訳者が直面する状況、障壁、ジレンマについて評価したうえで倫理的判断を行うために作成されたものである。本行動規範は、通訳者が直面する可能性のあるすべての状況、課題、ジレンマについて言及したものではない。

b) 仕事の受任

iii. プロとしての行動は、通訳者の言語能力のレベル、肉体的・精神的適性、潜在的な利害の衝突、および個人的感情がその達成への障壁とならない場合に限り維持できる。

iv. 仕事の受任をもって、通訳者はその職務を遂行する能力を有すると言明したものとする。ただし、上記の障壁のいずれかが面接等の過程で発生した場合、当該の言明を訂正することが可能である。

v. 上記の障壁のいずれかが存在する時は、通訳者は当事者に伝え、できれば仕事を引き受けないか、面接等から退出することを提案することが期待される。面接等を延期できない場合や、他に通訳者がいない場合は、この提案については検討する必要があるだろう。その場合、当事者が通訳者の通訳力の限界を理解している場合に限り、通訳者は仕事を引き受けてもよいだろう。

c) 訳の正確性と中立性

vi. 通常、通訳者は双方向の逐次通訳により、正確に話者の言葉と意味を訳せるように準備しておくべきである。ただし、文書の内容のサイトトランスレーションを行ったり、話者の言葉や意味について要約通訳したりするよう求められる場合もある。理解が難しい場合や、いずれかの当事者にとって文化的に適切でない場合を除き、通訳者は話者と同じ文法人称を用いるべきである。自分自身については三人称（「通訳者は…」）を使用すること。

vii. 通訳者は話者の言葉の内容に対する責任を負わない。通訳者は話者の言葉や意味を、追加したり削除したりせず、正確に対象言語に訳す責任がある。そのため、通訳者は本来の言語の構文と意味の要素を対象言語の同等要素に置き換えることができなければならない。一語一句直訳する方法をとるのであれば、通訳者が話者の言葉の本来の意味を伝えられない場合があることを認識すべきである。通訳者が話者の言葉の単語や意味を知らなかったり理解できなかったりした場合、推測することは決して許されない。通訳者は、たとえ時

間がかかっても、必要に応じて単語や意味の確認を行わなければならない。また、通訳中にミスを犯したら報告しなければならない。これは面接等のできるだけ早い段階で行う必要がある。

viii. 慣用的言語、または文化的・歴史的・社会学・人類学的な意味のある言語は、その扱いに注意が必要である。暫定的に言い換えてみたうえで、通訳者は、言葉や表現の意味の確認が必要と伝えるべきである。いずれかの当事者がそのような言葉で表現される文化的な信条や慣習について説明できない場合、両当事者が同意する場合に限り、通訳者はその言葉に関して知っている範囲の基本情報を暫定的に提供することができる。この情報は一時的に記録され、面接中かその後の適切な段階で、第四者を含めて再確認されるべきである。また、現在または次回の面接中の適切な段階で、面接対象者と再度話しあうべきである。また通訳者は当事者に対して、使用した言葉の意味合い（固定観念、文化的期待等）が原因で誤解が起こり得ることを伝えるべきである。

ix. 通訳者は、通訳者として関わる案件についていかなる種類の社会学的、人類学的、歴史的情報も提供しないものとする。通訳者は通訳中、これらのいかなる分野の専門家としても行動してはならない。むしろ面接官が面接対象者を通じて当該情報を入手できるように取り計らう。

d) 公平性

x. 通訳者は面接等の開始前に、UNHCR職員に対し、当該案件・申請者について自身が関与したことがあればそれについて伝えるものとする。

xi. 通訳者は緊急の事態、つまり他に通訳者がいない時や、すべての当事者が同意している場合を除き、近親者や個人的な友人のために通訳してはならない。

xii. 通訳者は、面接等の間に話された内容に同意する、しないに関係なく、自身の判断を下すことなく、正確に通訳するよう努めるものとする。一方の当事者の代理として話したり、一方の当事者を支援したり、一方の当事者に影響を与えようと試みたりしてはならない。

xiii. 通訳者は、いかなる状況でも、UNHCRの面接対象者に法的助言を行ったり、いかなる方法でも面接対象者の判断に影響を及ぼしたりしてはならない。

xiv. 通訳者がある人物の申立て書や証言書の作成に直接携わっている場合、その人物のために通訳をしてはならない。

e) 守秘義務

xv. 通訳者は、いかなる状況でも、UNHCRで働くことによって入手した口頭・書面上の情報を外部に開示してはならない。ただし、法の執行により義務付けられた場合は除く。特に、通訳者は、UNHCRに働くなかで入手した口頭・書面上の情報を開示することにより、何らかの形の金銭的報酬、利益または便宜を求めてはならない。

xvi. 通訳者が受けたカウンセリングまたは精神医学的療法の一環として自身の仕事について話すよう求められた場合、通訳者は、UNHCRでの仕事の一環として出会った特定の人や申立て内容に関連した情報は除外しなくてはならない。

xvii. 通訳者は、いかなる状況でも、面接対象者、その申立て内容、背景、立場、地位などに関

して知っている情報をUNHCR職員の要請に応じて開示してはならない。

xviii. 通訳者は、個人情報やその保管場所にアクセスする権限を有しないものとする。ただし、どうしても避けられない場合は除く。この場合、通訳者による個人情報やその保管場所へのアクセスは、任された責任を遂行するために必要な情報に厳格に限定され、厳密に監視されなくてはならない。

f) 態度

xix. UNHCRのために通訳を行う通訳者は、自身の属する事務所の基準や手順を守る義務を負う。ただし、当該の基準や手順が本行動規範に抵触する場合は除く。いずれの場合も、通訳者は常に時間を厳守し、きちんと準備をし、適切な服装をするべきである。

xx. 通訳者は面接等の各出席者に敬意を払い、出席者やその発言に対していかなる批判的態度をも示すことを避けるべきである。

xxi. 通訳者は、UNHCRから支払われたサービスに対していかなる追加の報酬、金銭、または利益も受け取ってはならない。また、通訳者の立場を利用して特権、個人の利得、免責を確保したり、UNHCRの施設や設備を使用したりしてはならない。特に、UNHCRで働くなかで入手した口頭および書面上の情報を開示することにより、何らかの形の金銭的報酬、利益または便宜を求めてはならない。

xxii. 通訳者は、自身の任務に関係のない仕事を引き受けてはならない。ただし、どうしても避けられない場合は除く。この場合、通訳者の仕事は任された責任を遂行するために必要なものに厳格に限定され、厳密に監視されるべきである。

g) 本規範の遵守

xxiii. UNHCRのために通訳を行う通訳者は、本行動規範を読み、署名し、また遵守する義務がある。通訳者は、本行動規範の遵守ができなくなるような状況に直面した場合、直ちにそれを避ける行動をとる義務を負うものとする。通訳者はまた、本行動規範に違反した場合、UNHCRによって認められた通訳者の一覧から除外される場合があることも了承するものとする。

付録Ⅱ　通訳者研修会のモデル

以下のモデルを状況に従って修正、改良してもよい。理想的には、研修会には通訳者と面接官の両方が出席し、4日間にわたり、通訳者の新規採用数に従って年間に必要な回数開催するのが望ましい。研修時間は1時間30分から2時間程度とする。

第1日目

- **導入部**：この研修会の目的は、通訳者と面接官が面接過程での互いの役割を自覚し、互いに協力し合えるようにすることである。
- **UNHCRの使命と任務**：参加者に、UNHCRが面接を通していかにその使命や任務の一部を遂行するかについて詳細な情報を提供する（UNHCR職員が実施）。
- **面接官の役割**：難民とUNHCR職員の様々な接触の場面について、担当者（面接官）とその専門知識、目的に特に注目しながら説明する（上級面接官が実施）。
- **通訳者の役割**：通訳者の職務の詳細を明確にする。面接官が通訳者に期待することに関連した議論も含まれる（上級通訳者が実施）。

第2日目

- **言語の問題**：UNHCRの援助対象者は、多様な言語や方言を話すことが考えられる。訓練を実施するUNHCR事務所が必要としている言語に関する詳細な情報が提供される（その分野の専門家が実施）。
- **逐次通訳における記憶とメモ取り**：主題に関して簡単な説明を行った後、通訳者と面接官は記憶の働きについて理解を深めるため、ロールプレイをいくつか行う。各ロールプレイ後には簡単な討論を行い、そのなかで、通訳者と面接官が互いの記憶にかかる負担を軽減できるような方法について考慮する（上級通訳者と上級面接官が実施）。
- **コミュニティ通訳Ⅰ**：UNHCRで働く多くの通訳者は、難民のコミュニティの一員でもある。このような通訳者は、UNHCRの通訳者として働くと同時に、コミュニティの一員としての信頼性を持つことができるか。本当に独立性を保てるのだろうか（上級通訳者と上級面接官が実施）。

第3日目

- **難民関連面接での通訳Ⅰ**：面接官と通訳者が、再度ロールプレイを行う。ここでは、通訳技術、言語・文化問題、通訳手続きに焦点を置く。各ロールプレイ後には簡単な討論を行い、そのなかで、通訳者と面接官の業務上の関係を向上させる方法についての意見、戦略、考えが示される（逐次通訳の専門家）。
- **文化の橋渡し役としての通訳者**：通訳者は言語のみを扱うのだろうか。あるいは、出身国の情報提供など、他の役割も担うのだろうか。通訳者が、文化的な誤解が原因で通訳対象者の権利

が満たされないと思う場合は、通訳者が通訳対象者の権利の擁護者として行動することは許されるのか。

- **精神的なショックを受けた通訳対象者のために働くことの影響**：多くの難民は心的外傷を経験している。通訳者と面接官は、十分な予防策が講じられていない場合、日常的に難民と接することで悪影響を受けることがある（精神科医、カウンセラー、または心理社会的問題の専門家が実施）。

第4日目

- **子ども、女性、心的外傷を受けた難民のための通訳**：通訳者と面接官のいずれにも、こういった人との対面に関わるための特別な技術と専門知識を身に付けていることが期待される（この分野の専門知識を持つ上級通訳者および上級面接官が実施）。
- **難民関連面接での通訳Ⅱ**：面接官と通訳者はロールプレイを行う。ここでは、通訳技術、言語・文化的な問題、通訳手順に焦点を置く。各ロールプレイ後には簡単な討論を行い、そのなかで、通訳者と面接官の仕事上の関係を向上させる方法についての意見、戦略、考えを示す（逐次通訳の専門家が実施）。
- **コミュニティ通訳Ⅱ**：通訳者が特に小規模な難民のコミュニティ出身である場合、家族関係も含め、仲間のコミュニティの構成員との関係に重大な意味をもたらすと考えられる。こうした通訳者は、通訳を行う対象の難民とプロとして、または、個人としての関係を築くことが十分にできるだろうか。こうした通訳者は、UNHCR職員やUNHCRが、その任務を遂行するために用いる単なる道具とみなすべきなのだろうか（UNHCR上級職員と上級通訳者が実施）。
- **まとめ。研修会の終了。今後の研修会に関する意見やアイデア。**

UNHCR研修テキストシリーズ3

難民の面接における通訳
研修テキスト

日本語版

2011年12月　第１版発行

日本語版発行：国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所

〒107-0062　東京都港区南青山6-10-11 ウェスレーセンター
TEL：03-3499-2011
FAX：03-3499-2272
Website: www.unhcr.or.jp

翻訳・編集：UNHCR駐日事務所　法務部
翻訳協力：法務省入国管理局

印刷所：株式会社トライ
Printed in Japan

原　文：United Nations High Commissioner for Refugees (UNHCR), *Interpreting in a Refugee Context* – Self-study Module 3 (1 January 2009)

Case Postale 2500, CH-1211 Geneva 2, Switzerland
Fax: +41 22 739 7354
Email: HQPR09@unhcr.org
Website: www. unhcr.org

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所

〒107-0062
東京都港区南青山6-10-11
ウェスレーセンター

TEL：03-3499-2011
FAX：03-3499-2272

Website: www.unhcr.or.jp

UNHCR
The UN Refugee Agency